月次記

角田氏藏書

九曜文庫

ミヤスン所トヨム清ナラウミ玉テハイクビシラキ玉息所ト云シ天子ノ御ヤスミ所ニ参玉フ故シ
中息所ハ故前坊ノ方シ秋好中宮ノ御母セ
前坊失セ給テ後ノ通玉フ　源ノシゲヨシ
前坊ヲバ八宮ニモ優婆塞ノ宮ト申シ
春宮ニ[illegible]ニ朱雀院春宮ニ[illegible]
ヒニ春宮ノ御酬アルシ

心アテニソレカトソミル
白露ノ光ソヘクルタ
夕ノ花

△夕顔　第廿九　二　哥ト詞ノ名トセリ　源十六歳夏ヨリ十月ニ

白なるやどりよりはなほうちのさ夜をみるこ
命ヲコヒテナルシ
のもたにはよりくるうるふ
ゑよ為てをうるうれ車いるべき門はさし
うるれで人をそ恨光やもてまして
やどしるしばけるのおほちのさ夜をみるこ
しの人るよは来れるるるるひぐきといも
のあてをうしてそでれをともいとろ
でうあげうてそでれをともいとろ
う涼しげのうよおうきひこいたきのす

二階ノ東ノ方ニ住ケル部ヒ　半部　者ノトミハ一間ノ上ヨリトニテフロ又ヨリ今ツボニテ

さくらばなちりてのぞくたちさはらふん
ちもけぶるこゑやうよあれごちよふけがき
ゆらぐそらいろのゆめのたびくるみんとやうが
らるとおぼしきれいしゃくしもいろいやたちの人
ちさきはなちりて雨とうきうのぞきこの人まど門
ハ主とのやうなりとそ[illegible]みうたの
狂句ぬしなるなれすまるを食よいけこう
してとおもかしなしなしいのうてなしお
ゐのとなるわきまわけばわものよいとわとも
るうぐいすの四ちうばよりひとれほよ

古今
世中ハイツクケレテワトサラン
行トミルノ宿トサダメム

古今
何ヒシ玉ノウテナモ八重庫
ハヘラヘドミフタリノチメ

光孝ノ御ハ梅花シ白ノ咲ルトスミテ名ヲ用ル

古今
新潟ノ遠方ハ物中ハワレシノ
ソコニ白ノ名ハ何ノ花ソモ

後撰 小侍従
キミヲヨリテカタ人ニコトミテ
名シラリメシタガヒノ花

古今
筑波山コノモカモミ影ハアレド
君ガミカゲニスクヒモナシ

後撰
山風ノフキノミクモミチヲノ
コノモヤノモミチリヌベラナリ

ふるきこ花でとのちこれひとりのこ
るとはいひながらとりくべよりとひとりごちるふ
とれば人ぬれいなるてうれとるくさけるをなん
タクとりとりはるの花のあいひとりさてうう
あやうさうきるよなん咲ぬるとりばよ
いと小家ごちよはちうばけのうわるわのこの
しのしあやうこうちうがひてひのく
しうぬ彩のれはまごにもひまうれると
ロ[illegible]の花のちぎわやひとふさありてまい
きとの話へでこのとちなりこのとうばうら門ハ入てお
ふさすぐよざ花ハしやまぞばよきなうす

〈子規十六月ノアヤメグサ
アヤメモワヌ文恋モスルカナ
重盛
〈シノ山ノユツリハイカデラリツラン
アヤメモシラヌ雫ノナシルニ〉

しのひ人ぞ
しげかりいで
のいろうこ
枝しなきけ
ぞうどけて
きそ
びんなりわ
くべき人
きこ大
卜ひき
しこのこ

重ヌ ノ形ヨキし
重ヌ ノ形ヨキし
重ヌ ノ形ヨキし

なるさ後よりのしの後へだいと義よりちお
しらなんこのちらなるくて牧位ふくるをし
みなのしのくさそそこてのの北の方九品上品上生し
さそりなくしまれ流くあ世よそうう
ひのろいわろこわごとなんきくをと涙
ぐらての話を頑カタクナ心なりとぐるめのとやうの
ふぐさくいあくさまうまるかよみるを地
をまていとを西立面目ラシキし たいし なるのれこう
まつりけんあ明めいこそうかるげのくを
るゆべうそれですぐろよ涙ぐらなりこぐしい居ぐりし後悔スル心似モハイヤシ思ヒ
なしみぐるすうとそそそひきめうせのきわ
子ドモハ夫貳ノ尼ゴリ先ウ心ノ外ニ思ヒ一尼ノ
ニリムヤト原ノ流ランゼンラ笑止がんし

古今 伊勢物語、
世中ニサカヲ又別ノナノモガナ
ナ代モトイフル人ノコノメ

ぐうこやうよみぐしひそこれらんぐるを流
とつきじりひめぐをるえいいと義と学て
て、をけなうりけう狂よろふべき人とのうら
をそをもしのひよろなごわえぞじくあ
まくしあるやうなりしうど立てくをしい
ぐうすぐうまくをくなんなもしし人と長性
なをてはいうぎうれいれば名をしえみ
をまば心のまうふひまうづうとはな
けをとれ久しくいんせぬはい心がく
を世ゆうをさうぬ別いなくもぐれとうんなど
こまやうよかくひのそをのごひのう

れ袖のにかひもいと所せきまでうりみち
うりよげなる人いとをゝしくなる人のれいを
せぞうとこのまゝえをもとめてとこたてる
だしもみるうちにかゝうし後に仮名なるなどゝ又仮名
うしべきことなどをきてその孔いをて出
れとて惟光よりそくめてけりたる扇
れらんぞれいまそなゝしうつり給いた
ことぬうるゆうておうつうれさうきてあ
夕うのうるたこえうとなくうさまぎうう
うもあてえうしきゆへづきうれいとそひの

みよおしうをてなる惟光をよはゆなる家
よいなに人のそむじぞとこひきゝうやとの孔
へば何のうきれ心といゝうどさいはさぞは
又いは日家よ行れど宿者のことをとゝ人あり
ひてべう孔よこなりのことをいえきて侍べる
どもたなびよゆもばよりとそひ
れなされどは宿のうげめべきかりてみ
ゆをれはあうの心をれんりのをうて
えとの行へでえうてはやどもうるかのこを
うびてうひきゝ。揚名介なる人の家よ
ゆうりうかとこいの中よまうてぬなん

揚名介ハ諸国ノ介ニ任ジ式云
揚名ノ諸国守ニ又ラバ下馬
スベシトアリしたべ諸国ノ介ト
ムコト延喜式ニアリ
豊後介常陸介上野介
山城介トニアリ

わくことこのうてそらかゝあどゑだけゝ人
うそきうるふとゆすくうきとい三ぐ
のえうはぬやゝんときこゑ月さはれの
ゑだけゝ人なるうとうりかゝはぬなれて
うるとめぐ風しうべきそうやけんと
おほせどまてゝ力れう心のにくゝぞ
そゞうれぞ例のこのゝこゝはおしゝぬ
れ心なるうしれ紙はいうけぬさ波
ようさかゝなて
ゆうゝ恋のタかありうれ月方それ
うゝれまぐこゝぬれさ波なりれどゝとゝ巳
あそられゝうれれをゝをみそぐさぐこゝなどろ
しうをれいゝ月へもうく月へられどなるまう
たなきようくわざとゝれいあるうゝていい
ようきうんゝどゝをうべうれどゝめぐまう
とゝうて月方いまぬれきうのれ月のうそ
どゝうて出ゝうゝうぬれきうのれ月のうそ
いまぐゝりうゝる火のいわかうりけ
ゝのうゝ衰ゝれ心ぎゝの形はいこぐち
方戒なとなゝべての形はにゝすとのとゝ心
にゝすとなゝうゝうけぬれをさ波

メヤしハおクルヨリケニモスし
トニ光ミるハやくノワしサ

万葉

秋ゼコガアサケノスガタヨクミステ
今日ノアシタノコヒノスナヲ

又

鶏鳥イクチ鳴ノワガセコガ
アサケノスガノミシバカナシモ

なごのけしきとなりよきつるあと
かり出てふべくしあつばらしたとそこ
し初すぐられて日さし出るてよ出行ふ
あさけのれそぐいげよ人のめぞきてん
しことそりかれさ夜ふりふりなりしほ
しとそのまへるわしれさしかくしすきれ
けんれわるれどうでそうかに一ふよが
心こまりているるるんのすきうたんといゆさ
きよれめとまりれりれ惟光日比ありて
まいれりるでひ行るんれすきげよ行れば
こくこのひありしてるんなどよてら

くまりそうそゆおほせられし指ん
こなりのとまてそれりのうびてこれも
てさ育ちきのうちろうぐこくしりはしとも
るべられどそのんとさこに家のうちの人
まづよこられぞとなんりけ中垣のうしま
そうはるよげけよるうきせどしのすきかげ
ひしはちびぐろりのかどとぐりのきこけて
かづくんはなるうきこのふタ日のおのく
う入てはうよかとうとそのそはうんの
かうそいとくはうゆおんほけい

撫子ノ妻ハ負ノケト紙ヲ

冬ナカラ春ノトナリノ近ケレハ
中垣ヨリノ花ハチリケル

ゐてある人どもゐひてうちなくさゐれそとな
むきてみしゐるとやゆゑゐうち名を孤
てきてぐやとおもかうちかしそなも
（是非ミントシ）（地惟光心）
ゐべされ男のかどなれどれよもいれ往
人のなひきめでやあくさゐなどおもふ
すきれんぎんしなきみるくさくしく
ゐべくしく人のうけひぬうどそでゐれ
きりゐべさあるりのといこのまうゐがゆ
ゐりゐとと思そうめ（惟光羽）みの人うとも
ゐるゐどえるれれゐでれうゐ山てせ
ゐこゐどれいそうきなれるゐ

きそうちとくゐるなときゐうきことち
ゐりうハあるぬわうくどもゐん作うゐるとき
ゐゐきハ花（原内）ひうれ弱きでいさくぐし
とうちなんとの流うれ（原心）ものきもとゐひか
ようちゐれどその中ゐも思のか
きうゐもかそかうりさそうの京様のこのさま
しうれしなきとこの世の人（菅人仁）よいだしてか
がひよ（大ミテノ人ナラバヤム（キシタエニリ夏帯ラタルニリ）れヤメカメトシ）（コハ大ヤウナル心）
まりうしもやとぬべきとと初てまけ
てやとんを忘るゐらぬゐりなしゐ

（薄ナドトオモフ中ニ惟光ノ外ノ人ラミテタクヲハメツフ
ナラントヲ云シ品定ノコトヲ思
出シ玉フ）

のなごくまでていあもりしらざりつと
ありし女房の肌さぐる後ぞうきく
知もかりつきの肌ぐのあるにいとぐくま
なくなりわるれ心なりしうもなく
きりかかりかかりしたるこの人を義と
知らぬにしあるひどれなくてきて
のちんとのちばしけきいまづこころ
の心みそとあがを程よ伊勢のきけの
かりぬまげいそきまつりかるみちのた
わざとそそうしろやつれら旅ぐこ
とふいはる心ぞきなきれどくしや

しらぬそらようろうるど物びられどきよ
げそぐぐぐそけきよづさておどぞ
をりるの地流みどりよゆばさいくりしと作出
こと後かしくあがせどあひなくまもゆて
心の中よ思ことさ後くなりわまわ
やりおと肌とくもしげよおこぐまう
うろうさわざなりやげよそでもの
めるぬることなるとしまのもれいさん
おが出てとあきよれなれ心い初こ
られどくのあい義とあるなるしあ
とぎりべきくよなげそ心のるとびあそ

今度ハ事座ナリテトル心

言葉モナケレモイトヱシカドヱハン方ハ君モシルラン

ぐりぬべしとさく阿よひとくなる心は
ちくちくて今一度ミテ右ニ契リヲフハヒヒメトし一度いえあるまじきことに
やと小丸をくくしひりんどの人の心をあらそ
らんとうてぐるようろくるえしもまぎれ
給まじきとまうてにげなれたるようて
いまさらにみぐるうべくとひくれ
うわさすぐよくうてそもかわれなんこ
こしとふひるくうるべきことにゆひて
さうべきありくくのれいてんどなるくく
きこつくなげのこのみぞだひはけるとを
のくあやこらくげよめとまろべさう

徒見ニトハ人ハヤリナラメ鄙遠ニキテ仏アカキリツクシツルカナ

くしんぐして義心とありぬべきさんのけひ
ろれぶれたるくあるさるのわれしぐこ
さるおかそ今一度新発ハめけくなれ
うもぞうちとけぬべくみしきあるろ
をたのこてこうくさうしうれんどれ心しうご
ぐりぬるくやりろそ心
ぐつよかもかしみぐうことたきてん義に
いこしよときてうくくめとひきて
なんりの玄系ろくはわもうけぐろうしれ
けきとおしひけきてめそ後ひきくん
しるのあなるんいとかくうれどそ

つらしれ心まどひのやうはあれどなら
といなりきしいうるることようとみしうあ
いとぬとあまもわなるまぞあがりちやう
れ心ざ後してよもひのかとしにげるくへの
ものきえんよとぐくれきれよれのの
孫ざあくあがりとうることいとさ後くく
うう雪のいとかりきけうてくるめう
されれて孫てるこげうけしきような
けきくくしのとと中ねのおもとみくくし一
まあげてくくそまつりとうるへとあが
しくれ九帳ひきやりれいれがつりく

げてみ出りのて前載の色てみられしうれ
さげそよやそくひのつさ後げよたがひな
しくのくへおくそるよ中ねのえれいも
よまいうたとんいろのありよあひらうするの
のしあざやうよひきゆひうこうつさそや
うなまめくくうみうのてすこのまま
のくうんよとがうひさすへのへとうちと
けくめりてなうしなさがめます
くもとみれ
さくるようつてみるいはめとしちち
でさうきけさの能がいそべきとそ

ほとゝぎすの人にしられぬ（ほかもモノセテクケトリ元也中し）
ものとなりてとく
（ホカモ）
（遠皆ハ是ハ是ニドリナテシ元也ヲ七ハヲホヤケーゴト、云し）
旁のこれまし（トノ山アルト云し）
なるよ心をこめぬとそ
みるとあはやげどよ
できてなほおしげのうさふしひとハ（ほノ山モフ童みし）
のそ（イニナシ）ゝこのまゝとさゝやさゝやさゝぬさ
のそそ霧けげよ霧のなるまでつそてな
さがりて霧ゝ花まなどゝよゝまりげ
ゝ夫（源ノ析ヲ云）ようちゝ霧ゝ人ゝゝよ心ゝあまり
ぬいなしものゝ恨ゝてぬ山ゝけし霧のゝげ
ゝよゝ花やそゝいまりかゝきゝゝやけいりと
かるゝけゝゝいかどくゝよけけてわがかる

春ノ序ニ
大伴ノ家主ハソノ主イヤシイハヽ薪ヲヘル山人ノ花ノカゲニヤスミルガゴトシ

しゝとゝふしそめとゝけゝゝまゝゝらゝそゝやと称
ゝゝりゝゝらゝりゝゝゝ

人よいうづくうらんしまぶりけしきよなん
ひしほをたれぶ（タレトブサニ車ヲ通ヘトヤハシレトヒ）
ぶとあるなる（中屋長屋和歌抄ハナヲイヒトヲ云リ中屋ヲ）
ぶやよもうりきつる車の名
をしばわるさこものしものぞさみどすべうめ
ほよはいたうとあがりきしもしらるゆきをべ
あるうちなんかのうなれどいとらいげ
よ行るひとひさきをいてわる車のをべ
ア下をのできてわるをべのいそぎて右兵（多貞世房）
元（ヨコハ敷ヘ）そまげぬつりへ中ぬ殿そそわ
わる殆ぬれとへぐまさうわしさおとる
出きてあれうキ（ヘキヲ）ばとそくぬしいぞさハ（カトハ）
（テヨノイトハアハク）

金峯山ノ縁起、

〈昔葛城山ト吉野山トノ間ニ橋ヲワタサントヨ日本国ノ神ニ祈ルニトコトヌシノ神ニ夜ノ間ニ石橋ヲワタシ玉シモ是シ 一説〉
〈大エンノ行者トツノキノ神トニ云トス 此神橋ヲワタシ玉フ故シ
引用 岩橋ノ夜ノ契モ絶ヌベシ
ろん俗ニキ葛城ノ神

ぞいでえんとそそひらうちをうちをしろ（内橋）
ものをこうしそ（中屋ニ行道ニウチハシ）をるんうひをべういそざくる
ものぎぬのすれをわよいさうけてうろ
（モノニヤトシヘイリギルしボ太ニニアリ）
がひさうれてそうろうわも落ぬべけきハ
いでけどうきの神（橋ノワタシ葛城神ノニキギルトヌ）
（ハシトヌコトシレシキヨフイトシシシチルトし）
とひつりてわ（シルし限ニ）のぞきの心しさめぬわ
元（ルキ）いれなをそこそれ陸多どもと
をしなにどうぞ（ワラハノ）へ〜ハ乳中
ぬの陸多のこど移りわをなんをる
しよひ行りしみどこさこゆきどぞ（中内）
よその車をミまのとの陸てもりの
（ミトヒノヘキモノトし一説多ノ方モハヨノミシレヘトし）

あるしはわるくしく人やとかがよ
ほしいとこらまかりげすれげきとみ
てわこうのけさうしいとうくしときそ
あないし物而ろくこのことれなどくこわが
どもとこせてあなどいまうきおもの
ゆうをたらおぼしてなんてられまう
をいかくいとうくうとこひてち
いうれこどもみどのゆうがことなやまし
けべきこもいひまうがうこうて又人なさき
毋とこわてれうゆるどうこうそわふ
あま毋のこうひよりめんれうでよういま

みせさをよとのゆうがうこうもやどれうす
まるのゆをとこうふこうこそのこれさがうか
ばりしこもものこれなるあれのゆよ思のか
ようしさことこいうなどあもかれうり
ゆうゆ惟光いさくうのことと思ふたがうと
こうまをのまもくまなれすきゆよていを
ぐたがうまどひうきつこのひておそ
しまこれやうがゆ程のことうがうし
れいゆのまこうこうこうこうこうこ
ゆいで流るこいゆ我と名のうをこうまそで
ことうなうやつきのひつて何なぞお

急装束 假相人

年ニ非ズ六月クレシ夫レ又東ニカチハダレトアリ是母 惟光ヲ馬シアレ奉ンナドハカチハダレノ紙ナレバシ

ひとしらずありきこれいとうるおぼさうねぬべし

しみじみ惟光をいとまつてれいとそ

そうつとけわくけさうぐのいとぬげなれ

ありもとをうけけられてほんはうく

もとべきこゝろおどろかれどくへよそもれぬ

まようのタぐかのきぐべをほどをうち

そいうかしばけ無下よるまうぐさきもひと

とだらわでおておそうけうもこうひよう

けしきもやとそこなわよ中やどりと

ぐよしれしぐぬ無気いとなやうて心しぬ心ら

のうてれれ文を使之暁ノ別よくとそくあう月のうち

をうぐもれありうこんとゐめれどそこ

もうとなくまのどもうつさ源心すぐよ義にを

でいえあるまうぐくこのくれ源心ようれ

だびんなくうゐぐしきこともかか

しくくびつてとこんぐおそうぬそ。

此是ヨリ源ノ平生ノ性ヲホムシ

うゐもぐいまあぐのみぐうくありしいうと

所ニミダレモ父ト

とめやくくこゐけめれてくのこぐあきこゐべ

こうるまひいこれさうつをあやこきま源 深加・是モ

でけさの源ひうまのなぐそもおぼけるる

4ノ宿ヨリ吸リ出テ

くなど思ふぐてくれのくぐういとぬぐ

ありくさ海で心とひべきこのさまふも

是ノ外・思モ思フハカナクれ（きもこうれべしトし）

あるぞとぶらうくこれドデモハンコトカド思ヒナメントシ
けしひとあさましくやそらるおほど
さてあくともりさかこいとろれてひさ
つるわびしうあしせをまぎこてぬる
しらぬぞとやんとなれよいえこまぎこげ
くにこしくしもごまろ心ぞとてるばれ
いとこしきしめさそれさうそくそもやつき
しうかわのれぞ波をうかをしか
のこを弦ぞ柔やりさかどよ人をこげ
そて出いりみどしてんでじしをけん
もの変化ぐこめさそうそこひなげ

ユダ乳

乳心 三輪明神或ヨヤ通ヒ玉フ

廿五文字ノトリナ 歌

此ヤリ山路ノくうの回文ニ
ニタ夜ハフキ君ノレキウ

るれど人のれけもひそくりみも
ふこわさ公れば旅でわよりそけん
ればすきしものれ忘ぞけるわざなりし

惟光ノスキモノシイデ名ヲヨナベレトシ
クレデカアラブズクレヤ

惟光ノ頃ヲ名ヲ氏ノ大輔ト云故歌コヽニテハ五位ヲル故ニ尉ノサレテ大夫ト云ヤ

さいふをうこぐひなのぐせめてけれるて
ぞうそうけてありひよしぬさ波ぬた

サガメヨリ惟光ノヒワザトシモヘトモヒラズホホヒバ父ヲトヒトコトヲト思ワヅラウヨシ

ゆまのぐあぐれいるうとふと忘
えぐくぬぐこもいるやうたびいうるひ

名表ハヒ玉ハヌ係物ナレバ

をなんしいるえしくうるめそそ

係心

油断サセテ

ひうれなどいばこことをそわとう祈も弱ん
わそのめくれ衆とるこうめればいげ

光ドバ

こふもうけるひゆんヨをいつとそ

ホノ

じとおぼれよ（更ニ打捨テハヨキガメナトシ、負ヨウナイテモ其方ニテキノ心ヨフヅバ）ひまどりてなのめ（カガヤカシ）
思ひなりけべくいとこうどうのそさひよ
てしるぬべくさことをさてよさだすがてん
とおぼえれぞ人をあがへどそとれりゑ
れくなどいとあひでくるすきま
ておもかし孫いれたしとなくて二条院へ
じんてんりかのしてけりてびんなるべきと
なわらもさうべ（ミヨウ位ナリ）（ナニアラハヒナル）いぶ祇心ゆるぎいとく
人をこしといなれとふるる樊ようあり
ぶんなどおもかしるぶ（原羽）（オツ）いと心やもさ而
そのどうきうてんなどろうひ人て（橋羽）
ちやうくの孫へどすがりぬれもそなる（ヨキツカヌ心ヒ始終バアルニモキ心ヒ）（ウキヌ）
れば和あそうくそあれといとわびてい
へでぼ（原）よとかろ元ふれのていづきうる
ろんでたうしきとなつてばよ
の孫へでめしいうでくなびきそさもいろ
めべくこひうわせ（地源ノ性）よなくうきとなんとな
ひとしひさかるよてこの心いと表げな
風人とみれよ孫うの臥中ねのとこなつう
さこしうてうしわし心ざまようづ思出てれ
孫へど思ふるやうそれいとあれぐちみこひ
出孫てばけしもしだうてやとそむさくは

べき心ちする人などいなけきいうれぐるはどて
とんありうそいさやうはおりひうろことを
あるべき心なぐしもそこうはいろのことひうん
そ長なうべうれとさんぜうて八月十
又乗くまなれはひはひまあかうはいろや
おうくもりきてひるひうまこぬすま
めのさ海もすづらしきよ晩ちくなりよ
うなうべしごなわの変くあやしさ蛾
のおのの和ぐめきまてあれいとさし
やことうそなわもひもきめじ所をく
なくを田舎のうすひもうひうけいと心ぐそ
うれきこどのうそ孫やみどひうをも
きこゆしと長うるものうてのいとなみよお
き出てそくめうさうぐしなどなの紙と女いと
をづしくこうもうえんぐちけしさぐまん
人いうしいりぬべうをはれさ海なりか
しうれとのどうようきもうれもうこと
ちうれともおりひいもてうさ海なりで
わがもそなうはいとけてうこと
めしくて又なくひうぐてうさこりの
よういなさをうるうことを少をうりうる海
なうれば中くもちうやかんわ法と

天ノ原フミトヾロヒし鳴神モ
思フヰヲバサヘルモノカハ

ゆかれてそみしるごかくとなる神
なるしなどろくとてやとどろそら
うれしきもしまつ（松）ごとおぼえそ（ユイ）なれこそ
しかまうとこれはさるなよのひ
びきとこそいれいはいとあやしうめ
ざましきとなるひとのこゝ変ふるぐく（ナヽぐし）
三位とのこゝおぼうちうへの衣うしきぬ
うの色もうすうこうきうきこそわる
れ京とゞ所のこゝろわかつてみゝひ
ぐきことおぼうちうきおまし所
なるれいやりをひきけりてもち

（スミヲタム〈し〉二条殿ハ三位）

もよみ出しもふ程なる紀屋よざれしう
れ行前載の京ハれうる所あしおなで
（左礼ヲ名カ）（四裏ト）
どきうきうさうわ出の紀くみぐわうし
くべの中のきわぐよぐよまどとて
まなるひ所つれ年よさしあてうや
うよなれみぐるとゆくさ後人ておば
（結ウ）
さうもれ心ぶしひとつのあさうぬよよ
ろげのつこゆうきうなやわしこうさなの
（紫ノウヘキし）（アヤセ・ウハギ）
もをうせをこのなの（翠）よりうなる紀ま○てた
なやうる君ぬそぐこいとらうこびよ辺
（ヤハラカし）（ウツシノヒハヅ）（ヨハキテ）
うなう心ちしてこうこうてそぐ

清秋納三

長九モノ若キ田カノ御
山嶽精進シ給ヒ定給ヒ
ク給モアハメ夜ナク
(ダツシラバクルシキコトニコ
ソ思フベカメレシモト外
ニキビシク人ダナシテ
トリサテ打フコサセ給
曉ノヌカノホドイシク
長ナリ

ど人のかしらん所もえでかわれぞかを
とり出て侍りをきを流て車ひさ
いまさをのふこのあれくもしるれ心ざ
のをろうなるぬをみしればおぼやしなぐ
よのことをけやしくしるわ明ぐしらるり
よりわ当れて忘なのどいきこてみけさ
うぐ精進あんこうでおこうれさびしるる忘よぬ
うづぐ礼拝スルヤウノ気ヒ
ぐ礼拝ゆうこ
らるれけるひこんぐば
らぬせをなのにをいしさがうれいのりよう
とやあるふなしらい導師とぞおぐじ

ウハソクガ行フ山ノ椎ガ本
アナソハ〳〵シトコニシアラまハ

山端ニイサヨ月シ出ニケト
待ツレニ夜ゾフケニケル
武士ノ十字ヲ出ノ細代米ニ
イザヨフ波ノ行衛シラズモ
月やこし村やユヘンイサヨヒニ
二キノ夜ヲモカヘズミヂリ

なるうしきくあこのせとしいとたぶわ
ちわとしあるれぐわ
うんちくがどこうふ道をたづしてえんせ
しかうさらぎうわたふるもちと殿の宵き
たしいゆしくしてもとうとうさんといひ
さくんて孫勤のせをそかひ孫ふゆされ
のれたのめいとこうらぶ
さきのせれ
そ名うてたのうぎうよ所のうさよ所
どしさういい心もとなうやられそちな
りうくたのくぐんとをいかりひやそ

原羽　光色ヲシルベシテ来世ニデテキギルベシトシ
旅初ノ出世ニデラチギラトシ
原　像塗座信ナヤラ仏ノ四部ノ書ミ文シ
長恨歌ニ比翼連理ノ点アリ
来シ
原心ニ光ヲ照ラシテ
地
原心ニ光ヲ照ラシテ
卒業記之卒ハ一説ユヲエテクシ不意
不意
五夜月暁ニ山ノ端ニシバシヤスラウシイザヨフ
或説ニイザヨフ
ヨミハ十六夜
ヨミハ十六夜

ぬこうくのうみ江ぬ俗よ雲ぐれてあけゆく
そういとおうしもうさなれなとよなぬ
さきにと何のいそ化出ふてぐうう
うりのもの入れぐあとぞのりめそのさうち
りうさなのにぐしの院よりうしゆれはそ
なげうわいいづう江のれううどのみぶ
ぐさうげうとてみあげもてうたうしへう
こぐうし雪しあくこ雪けきてすぐれを
さんあげのえれば原池しいさうめれようう
まぐうやうなうとうなうとうきうわつうを忘
ぐくしううとかしをけうれ

原
キリ
ナイ

いうへしらくやゝ人はまどひうんわゞま
だてぬ人のうの心ひのうやとのゆふ
せうちらいて　世心ハ水美シシリモヤトヒノ思ニテハヅルシ
山のうの心ひ　比たゝし　世人ハ月シタクモレシ　自云し　次ノ夜ハテし人ナし心ボソキナレ（シ
ましてうばやさしかん心がうくとて物おそろ
さうまごげよこひうれいうのさまばひく
すまるの心ひうんとかうく覚それ
車いまさもてこのごとよかま寝殿なとうそ
ごどうらんまれ車ひさうけて立うま
ごかをえんなる心ちしてさうこれす
なごもし人うしぶそ思ひうあげうちいみじく

敦命又経営　イトナミシ又ヲドロキ恐ルヽ下し
けいめいしいろわく氣色よりはこさ海を有て
てぬかのぐとぬ又ゆうほどよおりとのぬ
打ヒ　紙ナドモし
ぬれもよ人しさあふぎわうあびんなわさ
かとて　ぶりハ　被宦し　下家　日
もれうまちうものなりうれいまいりて
さうべきこんかすゝきやなどぶうれど
源羽
ともさうよ人くまうきうれ衆もとやうる
なうちうよ心ちうかよもそとうち
ぶうあさを物ゆうるといそきまいこせ
うれどうわづ　貴人ハ通人ナケしベニイフ又モノトし
ぬまうなりひうちあんばま

ぎこてぬとなる山藤のよ
ちぎりわのみすのあのことなれば
よおきぬひてうらしるばけるこけ
こといてなれてへめしなくるぐしみを
なれてこぞちいしうとのくぬわ
うわけちうきるなどいとにみごこ
わなくひかあきのあるうて池しこさ
ようぐもしうればとけうとけるなるる
所うれ所ちなるるしるるそざうしるど
して人をしべうめれどこうこいるれわ
けうもなるわるうあれさうとも見

（鳥ハ息ガキ故ニツバケイイリ）
（鳥ハ身ヲキ中リハタ人ヌトモ君ミカメラフコトツキメヤハ）
（里ハ荒テ人ハフルミ宿モヤ庭モ籬モ秋ノノラモ）古今

（別紙ニ前ニ三名屋シ鄙ニ人ノスムベシソノ人ノ名所ハ遠キトシ）曹司
（紙疎キ故ニ）（紙ハ）（ヒ）（ヒ）（ヒ

白波ヨル渚ニセシツノクス
蜑ノ子ナレバ宿モ定メズ

蜑ノ子ハモシスム宿ノ秋カラト
チシラノナカメサラバ恨ミジ

原詞
なほこせび角ぐそのうちきにいてを
ごとおもへ原詞ほかりのをいまぐこよ名ちり
しのへいとしくしけしとの孫どゆまの
みなしばとそさえすがようらとひぬさ海い
とこいぶれーうわ原詞うしわ蜑ノ子ハ海ノ底ニスムユヘ
アセ（メルシ）
愛ニ堪ヘズ（ドクシキケモキリナヨゴ光シ）
アセ（メルシ）
アとうこうけハかてひろ（イニーシ）ゆ惟光
右近
弱ゆてれぐものなじまいてを惟光心ニ我身ノ上ヤウ（イモテメバカリシラバルシ）
がくんとますぐよとあ名ればうし
えきふひよぐぞくすぐなるわこりき
ゆしもおしうさ寵愛ノフカキテタノカメチョウイシニハルトシ
ぞいとそうえうらふしぞいとうくこひ

我モ思ヨリシラ原ニメテニルハ我心ノヒロキト月ニラフトシ
われ人うつりてとゆづりはて心ひろさ
よなどめこ海しうんひとるべ（ネナクシ）へなく
たげうゆびのそをなあ活てあくの
こいくらわひしとせいおりひうれば
原もつのすぐしをあげてそひわ活てタ
ぐ人とみうてせしうりうう海と思い
のあよあやしきさ心ちいミるぐよろげの
なげきそれもそうしとけゆけ
しきいとらうけとれいこえそよそひ
そしてわといとあそろしと心ろうさま
わうう心ぐるしうくあろ活くれ

ごろぶらまてきて（原詞）ゐなくなりにられ
あわさ海うて（原）れ心のうられ浦ぐて話し
路へうなんぢきとうこ（原心）ものこうにい
よもとあさを路ゆんと、ぜにこよ路ぬん
とおぼ（原）やりてうけいけやしれ心や云系（原思出シ玉フメヨリシテ他上見ノキ名し）
（原）わみしいるよりひみぐれ路んうこ
られんしくぼ（原）うことろわなりといとあ
きそぢいまづ（原）ろひやて路なに心もなれ
さうひひとあれとあぼそまてよ（原）いよ
を心ふくみ流へもるされにわさ海と寸
うとりそてぢやと思ろべられ路ける。

（原）ひそぢうぼどにすう路いり路へうて
れまのうぢにいとおうしげなるせろそと
のがいとめそ（大和ノ人）うしとみるをぢこひもお
もぼさでうくぢ（三位ノ女ナレバ）ことなれ人（タレ）をあてお
ろてこきやうぢ路へそひとめぢあく
路ぢ行れそひれ（原）ろころの人とうさおこ
さんしそとみ路（原心）よとそろろ心ちして
などろさの人れ（原）ばゆ人もきしよろわうそ
おぼうれいたらをひさぬまそうらをき
路てををおう路これもあそろと
おりひろさ海そまいろらりわ（原詞）ぢどな

ほとゝぎす人をうてゝたそかれとてまいれと
いとゝの所へでいそぐまゝしんくつうてと
人ぐあれわりくしとうらひ所てよ
（山彦ノヲトヅレトヲブ今ハ昔フ　我ガ人ヤト身ヲ入テル世ニ）
をゝてきた所へで山びこのてふうしんとうと
まゝ人いえやれけでまつてぬよ山せえい
みじくもるてきさまゝどひていりさ所よせんと
（秋ギリノシタヽヽヽ

ていめうものゝ性光孔仏のきこえわれ
らんかとこそもの（いきうひつれどあは
せごともなうなりきよれしひびよ年う
べきようにてなんまでゆるとゆ
このうにものゝ御口なわれぬゆ
ぢういとそはきぐてうちなりてひ（今モ火ヨウレトヨブ由ノモノコエナリ）
あやうしとうくあげうわがざうしの
うへまいめうなわ（東心四条ノオホスハ道芳ノ宮トリ）ぬとあがりやりてなぐ
そいうてうりのゝ（東心ハ元ハアルモノ）いんいをぬうん御口はのとものゝ口まそ
とをてうりのゝ（東心）いまうぐいうつかけぬよ
そいうてうりのゝ妖えいさぐうりのゝ

うつてあをいくこたてようけぶ仏
うつこそなぞあれ（清日）のゆとら
やあれうう所いきうのなどやうのゝ人お
じやうさんとそけあそろうう思てそろみん
まうあれぶさ今のものゝいおどされどそ
ぶきおうつのふ（遠日）とうそみぐうの心ちのあ
ゝうそべれぶうけぶてゆうて行うなれおまよ（タウ云）
へよそわうなくあぶがうあうとゝ人ぐれよ（東日）ゝとゝ云ゝう
などうういとそゝいさぐうりのゝよいきもぐび
いきうぐうりのゝどなのよくとして秋よ
もあゝぬさ後ろれいふとうてわびうゝ人

そぬるけどくれぬなりとせんさな
きぬらしりくるをくそりてまいりあをも
うづくべさきはいかしもいつかいちうきこれきこ
帳をひきしもそて(東河)れとそれとの孔北い
なりぬことそおもうくえまてぬけく
ましきになりけしかしもえのりぞれ(東河)そ
こや前よりてこびひてえとやらもてみ
孔へどそけまうくるよ友よみしうかい
うらうらせおしもけよんてやときし
うもぬ着(東河)ぬるわるどよそうろとときけ
といしめるうよひけれどまづけく
(ヘクリ)鑰(ヘクリ)鎖(東河)

〈寛平法皇御息所ト北河殿ニテ御産ノ時離公昊来リテ
此息所ヲ生ダテトハルトキニ
世ハ臣下タリト雖ハ半土
ヲモタリトズ〉

前寛平法皇御息所
ナヤシ玉フトキモ浄蔵大法
師加持シ玉ヒテ蘇生シ玉
フシ浄蔵ハ慈覚ノ弟子

ていよなめるそとおしもかそ心さんぎよ
のうへしもそれ北そひみてやとおど
ろうまんどうでびえよひえそそいきい
ちくうそこそよいわいんうなるめも
ちくいうとそもわしふんべさくもなりり
しるどをそいうふうこのしみりさめ
ふいおほそべうれどさそ心そばよりうど
わうされ心そいふひるくぬめうをみこ
まよやうこなりてけといづうさてなのぶ
ぬいきそうへいみどさるえをのひそ
とのうへどひしそうえればけひま

（南殿ノ見 世継云 泉信云 勅使武徳殿ノ松原ソトホリヨリ時モ生名手ニテ大カンソトリヲ引トヾムルトキ勅使ナリトヨ玉ヘバ射ハナツトナリ其ホカノ源ヲ臣下ヲ傳号シナヌヽヲラズト思ヒ玉フトシ 大鏡）

うとくかゆくをいとあはれなりつとゝ
けう四りみるさめてなさまどゝさはいと
いうゞ南殿の見れなにゝのあるゝをおび
やゝ久うしうをとおがいでゝ心だけく
きわとしてゝなづゝよなりてゝのゝ
ゝいおどろくしあれまといさあ弥ひ
ていとあてゝしきよあうれら心ちし
りゝ心ゝおとしこゝをもてゝ
ゝのよとそれらゝ人のなやまつげるば
ゝで今惟光の朝臣のやどり所まゐりて
いそがまいりべきようゝとおせよなるゝ

（惟光 ホ ゝ ゝ ゝ）

れ何間梨そこよ地そる狂ゝ言よゝ（さよ
しゝゝいてゝゝのあまゝ元みどのさんよゝど
ろくゝゝふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝどゝ地のゝゝやゝゝれどゝゝゝゝゝゝゝこの
人とゝしゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝよゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

明ケニハ八千年ノスコシ心モエテ
ミツハニコトニ人ニカリケリ

花よ人ゝ名せぞなどそくそくなるさやどれ
うつゝとくやしさ風ふんさなし恋を
いぬし覚てはれよれとそひ寄てわな
さきぬべしまこと近しいろんと心そ
そそ人流てわがひとわさしき人そ
あがりやうかゝぞなきや夫いかのよまぐ
なきそもやのきてにそう屏風れそ
さくこのくまよぐてうゆるものく
あとひしくとやとなるてうろ
うるとうる心ちそ恨恋とくまてな
しし待ちそあわうさぐめぬめて言こ

河原院

打出ヒラ人ノニジメキニ似タリ

源心鳥ノ声ヲキヽ玉ニト余モ存余ル心ヤレモ

変ガリ多ノラシロレキムモヤトシ

我ニ似合スコトヲヨボヤナントキニ

恋ノ

いづひりう程よ兼のいろなどのくしさよ兼
とすぐさん心ちしてうのこ心
そうよきこのうに命をけてなよの恋よ
るやをみすん秋心みづこるそちよお
月ばかりのくをまでき心のひそひよくき
こしきれのうあしなわぬべさといろ
なるあふもせようとかられなくて
問よきこうわうれんととそて人のか
もいをんとようぬるこべのうちぞ
さそよ成ぬべさなわわくておこゞま
しきをとうべさうそさづて

ばらして惟光の親はまいりけりよなら
あるうさといとゞたれ心よとゝてゞつものこ
ゝろいしもうあるそやうよさんをこゝわ
ばうなにうしとおもほせぬしもいれて
の玩出んとのあんなきこよをとぬしいれ玩
さゞ惟光ばをたゞのはをひきくまゝでめ
わのとうらおひ出て出てなくを源
もえく入玩をぞわまひうわさうゞいい
ゞれもち玩へ源ゆよこの惟光くよいきをのゞてぞ
るうきことをおぼれるゞこゞりいとい
うくえしもとゞめぞなきあうふやうあひ
ナキ玉ヒテ云ヒ
ヤシニクキコト
シ云

君ニヨリキヽクトヨヽクト
ナシヨシナヘヨヽクト

て爰よいとあやうさことのなりをなきま
しとふまもこのまわてなんあふうるとこ
のことよいず源などをそするれしてなの
こゝしもせうきん孰などしたてさんとて
あゞわぬせよとゝひやりうるとの玩よ
惟光
明日山へまうるわのゞわよりわまゞいとめ
ばうるうとふもはうるれうて例なぞ
れ心わぬせきとのうゝやりうんさうこし
なるわけとそなりきこ玩さ源とかうばよ
らうくみゝそまうる人もいとうあゝて
惟光
とのれしもうそしなきぬさゞ人ど辛うら源

びせのなるのこあることもとかがどもめるくしを
四のありめいいるのもしわれいばれし
くわりきしどらそいうんうしなはまど
この流もりみどときんといとびんな
ちうべしこのくひとりそひまうも
あるめをのびいるぬひもしけべきくをん
ぞくもうらまじるうんまげは流をそ
おそしまうあとるそそうわくぞく
なる流所いうぞうあんとの流げはさぞ
はんうのみかどさといせ彦などのるひ
ようぞなの紀まどひはんようこうた

トシヨリハ白髪モ白ク
ミツハクムセデナリニケリ

げくこどもうる星べあるくはんよをのは
しまもはんと山寺それるれと
をのづゆさまづとぬまきるとは
らめとひまうてひうみ流へしせ
屋のあまうそはるひんで山の屋ん
うけしそまうん惟光が父の紀伊の
めのとよとびうしぬのみけるうそはあり
あるわいくんげさやうよはれどとうごの田やかんと
よはるとあてあけるるる狂よれ車
よそこのくをえいづ紀まれるうて
ひうよをうて惟光のせをるを

きびやうそうとまつりげもうくらくげ
なるわ[illegible]うのしもえきのびうをいこがれお
いうしもめうしまどもひていつさまうの事
とおがせばなるわうえさ殿とえんと思せど。
もやは馬うて二条の院へおうてまさんと
さんじく成侍るぬ程よとて右をとゝゝ
てのまれば元よりるいこまりて我いうちわ
ゝうのきびけおどうて出てしかけいと
あやまくおがしぬをゝうなれどれ角この
いみじきをこまれば方ををゝゆくよ
元はゆしをて流ゝび我ゝれさ殿ゝそお

二条院へ
うつさうゝ人といげこうわおうまるよ
なやまうげよゝ[illegible]れおどゝゝどを
帳のうちよいうれてひのををえてお
りよをいうぐれいなどそのうそひて
ゆうぎうつんいさうゝん叫いなう
心うちせんかをそゝゆきわれ日夏
くやうゝんと心まどひの中おも是を
よれひのせうあぐる心うし流れぐて
いうゝまもあつき心うしていとうて
くまどそれ流へうくゝるうて我と
うぐうよ成めうなうとあぐ光首たく

なるしるしとあらそひあひてわかれをのゝ人どもはやし
ゐてれうゆみどもそのゝちやまゆまどをうち
しらべていとゝこゝろぶかくおぼさるゝよ間よりわ
れたひるこゝ飛日しもえらびいでまぎわし
うわかつるゝこゝろもおぼかぬいとゝ元ぶち
ゐ引へど既中ねでしわを立ることなく
よいわ引へしのひてみそのうちなのゝの
詠めのとそれ引ふみ月のひかりわ
あるもつひ引ばかりらわいじとと
うけるどしそれのゝ三ゝるやうとゝうこ
ゝをとひけるゝをこうてよくなん

ありけるゝ今てうびこうひみとやうわ
しうばときなきうがつまひしりて
いまいのきこゝとまはけしやゝ四ゝんとゝ
へてまうわしよそれ安なるわうゝ下ゝの
やうひしうゝ俗よえいさわんでなく
成よけうとおじゝてゝわそ日をうゝして
なんゝうぞ引ゝとゝまつけ引ゝうば神
ゐうゝいとゝうびん不便恐ゝさしゝ
ゝこまわてえまてぬなわ見上ゝ曙ゝうわ
くゝづきゝやゝ病ゝうやゝんゝらいとて
てくゝあゝくゝ引ゝればいとひゝてゝ

八月十七日ノキヲ十七八月八日ヨリ内ノ神事ヲ九月九日ヨリ三ヶ日ニ参内ナフ文トし

無礼 簾ノ内ノ人ニ不申シ

ゆうことなどの所中ねさべさるようと
そ奏しけるものあり東辺しれいのそびようこ
くもとあるをを所ひてれ所ひてくる行
さとゆし所ひてちうりうのうなりうしさ
行てし邪気に行アメリ玉アリ
ゆしまうらもあるやのをやを所ことと
そまとと思ふのてれ孫と子よじ
孫うられめしのそてくこまるよいのでに
ゆしぬけごひよかれるようをそうし
所ことそあいびくれとけしくく
の所ひど心のうちよいふひなるる
さと所ゆそよれ心らしなやまけ

れいびんよめしみあもれてび花人の弁をめ
しうもてまちやうふようをそうせさを
の人ゆはものなどあてあふ笛ふて示
らぬ沖をそこなどあてあふ笛ふて示
光あるうるはひひわとのれいて
あるんじし旨之なごまうづまいびんそば
しどやしもていまえとみそて
所やとのれまよ油をれかよをあて
てなきこ所ゆ惟光そもなくくいまいうざ
アにそ沖しのふちしなそながくとこもり
ほんしびんなきことあるなんはうしく

右今ノ
世間ノ人モ老ゴトミシナビ、
アキ谷コノアサノチリナメ

行ばこゝろとゝまるとさ老ぬのいと
きりて行ようひつけぬるとゆ
ゆ(原)ひらわけるゆ(遠)ふいまとの路人ぞ(惟光)なんな
又えゝまでうゐうゐうれしとられどとは
どひ行てけさ(原)いなゆしらつめぐくるん
みのゝつう(遠)めの(ハ)ゝ(モ)ゆ(ヨシ)ゝ里ぐよれげやんとゆ
せどこゝぐこゝひこげめよとのこ夜ありひ
めぐしてとあるんうゝをさ行つとか
うゝゆゝまゝよ(原心)ゝとゝうゝとゝして神し(原羽)
ゝと心ゝなやまゝくゝるゝべきようとゝん
ゆゝとの流ぶな(惟光羽)よゝさゝよあしゝ(ナゲキモフヤ)ぬせさを

行ふまゝべきようそゝげのこと行ゝ人ゝも
もゝまゝとゝのゝれば(其夫ニタメラヒヨツテスシラル)ゝ惟光ゝ(原羽)ゝてよ
ゝげいゝゝ行なゝどゆゝさゝ(原羽)ゝみるゝひ
なゝどゝうゝひゝ(妙色)ゝ心のすゝひよゝ人ゝとゝゝゝよ
なゝつゝゝゝゝと(ナニシト云ヒ又ナイコトヲモフ)ゝ又(ナホ)ゝ(ハウラムル心シコハウラムル)ゝひめゝべゝさゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝか
ゝの命(惟光が妹し大姉ナリ)ゝゝゝゝゝゝゝゝ

しの行て田かも苅ぬれば又くさもち
きなげさ流とはのぐあやしぐさ
よことなくもがせとなのかどのさほりの流
へどなよっとくもべさまも行ぞ
とそこれがとるくあぼさるれいびん
うと思べるしどまーくびうれなきこ
ともみざんがっといでかをうべきを馬て
ぬせんとの流をとをとうくもこさといお
んどさこあはさんいでせんもやあて
まて来みはぬさ流ようてをあてまも
とりせばばの流やつきよまうけのんかわ

れれさうぞくきんなどして出流れ心もりさ
くしいうでくくへこけきばかくわやし
きみちよおうらてもあやうわしぬこわよ
いうせんとあがりまうべどれるまのやる
こなくこういまのこをみでいまこいつの
せよあわしうちをもんとあり祢
けて例のこみ月をて出流さ
ちこをくを由ゆ十七日の月さう出そにの
京のかどれさうきの大しかのうるよこへ
をのこなどみやりこう祝をぬしわ
しきもの流こを流てぞうきみぐら

△葬送仏弟無言念仏得
十五切像　河内

心ちしのびておろしたてまつりぬ（遍昭ノ山ノ名リ）ミテガヒテ三ヒベシ
ごきよう（惟光父ノ名ノ家シ）ごろのこと
なるあさましさにまかしと義つりこ
のびかのようにしてこゆえのやまい女
ひとりなくこゑのうちてこの（外）ことに法
妙ごろの二三人物流しつわざとゑ
えぬ念仏でもろ音ごのそやし（初夜）旨とこ
ろひとしていとこゝろやすからぬ清水のこと
でひとりもかくてこのけとひしもとび
わらひあさましゑのるなり大とこのゑ
うとくて弾うちうちとうち用ゐなく

あばらうちはれいと大とわそもしけてを
ゝ屋風屋でそくあうちいる俗しう
ひとみりふあそろきけし受てばを
らうびるうさ風してまざいそりかわ
ゝ流れなり（原河）よとくて祇よ今てび
ゑをどうよきこをもの人ゝうう昔の歌な
うみりんゝでのそどよ心をけくて義
よ受てしをうちそまどろ流ざい
みじきことゝゑもまなきゝ流
ごとゝゝざうわなりしやとこちもれをいそ
ぬよあやしと思て旨なみざおとう行。（カタ漢ノナキ三ハ）

原羽 あとをどうぶ二条院（との殿（どうぢ 直羽
おさなくゐしうつくしう時立ちまれ
ぞなれ侍りて つう人は御はとれをいづ
こよう御侍ん 五条ノ宮ト（モカ（リメテハ心し
よもいひ侍ん なりきことをどいさるぬて
人よ（人ニシコトヲチラレトし）ひさうぐ侍へ（ぐ）いうぐきこと（ひてをれ
まどひて 御（ニモチリトナコト云に）よたづひてきてひまいうえと
ふと 原羽 ふとうわなれどさるんせ（定リスルモノトし）ゆ御わ影
といふものるあ〜ぬいなし〜とあるし
うもなうぐ（遅速ハアレドモ）命のうきわあるあるよるん
あう思うぐきゆそ我をしあとの殿ひこ

うてもうくいふ我方にいきとまるまで
さ心りすれとの殿しだのりげるやや
世を和ふぐうこよなわ侍ぬんもやあせ
殿ひなんとよ世（原）ぐうこのをせれて
ひもつとやうぐうて出殿ふみちっと露
けさうとぐしきを殿ふいげことな
くまどふ心ちしい殿ふあわしねぐうちふ
しうわけうさ殿（タ）うちそ殿（タトハ原ノ本ヲ三ツ入テキセラキモフ見ハ〜ハルトし）ぐ我
ちれるのれば（ニレモし）のうれうつるどいうう
けん殿りうとうちもぐうあばう沖馬ち
ちうぐうてのわ殿まりてきれ殿なれで

又世をひうをけておとしまきすると
（第廿八段　昔八条ヨリ九条ニ通アリ　防鼠所使ト云ツカヒ人ヲタヽシ）
ぢうの狂ふて馬にうちをべきありてゆく
くれ心ちまどひいれどうちの方よ
（エリ出ハデ）
（紙燭正躰ナキニイヒシ）
てうちあはぬべきうやあんさうよえいきて
まゝこゝろなんをとの所よ非道也心
（諫申ニハ出ヤムベキヨト思ヒ）
ちまどひてわがしらぬいさの所と
うほ道よあそびをるべきうんと思よ
と心あしくしれば門のあるをを
あひて法師のあるを会じなりても
（無道ヒニカ不ヒ）
をべなくこゝまどふ元しきわてい心をお
（発心）
うて心のうちよ仏を会じ所て入ぐ

うをけられ所てゐんに二条院へ入る。
（心）
がやしう美かうきこれありきが人をみゞる
きわざ所ぬ比何ちわしを心なきこれ
（レヾガタハキシ）
みひありきのうちをうを中みも昨日の
れけしきのをとなやまうを受うわし
（ヌ）
よ入そくにぐわりきを所ちんとふてうぎあて滅よ
（ヌ）
（ヌ）
つすぐを所てこ三日よ成めるよ心げよ
（ヌ）
よるやうよし所門みしきうやうな
げくことうぎわなうこれいのうをぐよひ
まなくのをうまつをへずわるど
（タヤモフクヘ）（ヒヤウトヨムベシ）
いひけくそなしあせよたぐいく

ゆゑ（原）これを（原）なにしかば世よなどおろ
ますまできこゆやとあやのさてれ人のさ
もこざなるわ（原）ゆすされ心ちにしかのかをを
つらを（法皇アキテ東山ヨリ）てれどゆゆどちく（原）ゐてさつら
をを（原）ゐ心ちもさを（原）ゐまごんどおい
のどそこの人（遠）れしうざなりと思ふとも
てなりたをけつ（原）ゐまてをを（原）えいいをを（原）
はあり（異別）て（原）えさらく（原）ゐ（原）ゐ（原）ゐ

不孝ナリトヨボシテ養生シモラシ又読ル今別ノイリ心シ

めそれどうく学てなら大度もいらでくせい

ないしのそ日くまよわるれてさう陰ぐの

ことをさうせれたるすーるやあよ日ないしをも

くるづひ行へまどことなるなこうあ〜ぞ

をこうわざ陰よそしあふげどいしれし

しひとりはうらめうよなればあかりう

などせれ心ろうなくて内のたとのる所ょ

原 系れあどそ大度わがれ車そむ入ま

のそれ内いと何やうやとしうけし

ませまのふわまこもけどあぬせよ

入まるやうよたぶ八覚しれ月昔日

の狂ようぞをこうわしそれてとうるもや

せりへれど中くいうなまめうして

なるどうよ称をのもなれるふみまりとが

ひろ人しけわれれものけなりなどよ

とあわ原をを二条院ニテし出てのどやうる夕暮い

内内などし行て原羽牧いとなんなやたな

とそれの人とそもどといくいれてし

で滅よあれるなわもさどりよ公

ぬ行てで角でそれしうばなんけるわ

しとみ行へいなよ達羽どそうふくめくしき

て行こといはんいけの狂ようこな

らぬれば（原ノ日ニソメ玉シコト思カケ入コト）
あやしうおぼしぬさ海なるわしれとな
れぶうつるも受てぞなんいろとの絵て
れば（原ナレ玉フ故ニ未モトゲヤシント旦玉フ）（ナガリタル心ヒヒレフメギラハシモアヤト旦玉フ）
みどりなる絵ざわまさそまぎてる絵ふ
らめしなんうきこと受てしわしとや
ゆれば（原羽）あいなるわれる心をべどもるる秋
志ゥ原ごつる心もなるわさ（シビアキ）ざるよ
人よゆるれぬ物まいをなんまぎなる
しぬとなるうち（内変）ちよいらあの絵てすれば
そじめたくしとおぼるる身をてるな

くよたるれしと（狭）をいも前きうるる
うふさ紀方（元身人ヲ元ナ文ヨニラバ今テコノ有遠ハミヒルベシ）をそ（ヒベテトシ）物よなんいるをるる
わしタ（須ヤドミテ）わあやを心よかてをれ
ぐらよみりしもるべき絵ようれ
ぬしれけのとそ表よりん又ら人
しけうう受ゆうるなぐるまぎる
ていなどさうしも心よをて表とおれな
ひんれくるうるはまいのをう
くそべきぞ七日（ナヌカ）くの伝（名ヲシラデハ誰ガメヤト迴向スベキトシ）てしぐ
ためとう心のうちにも思うんとの絵（いの遠門）
うハ原ぞそやしをるんる（須）づるみび

住侘テ今ハ限リト山里ニ身ヲカクスベキ宿モトメテ（ルオホヒ）ベキ後撰

ほうしとなれいうしろめたさのあまりやとゝゑのあるべくわるうんあやしらいきやうせれのうさ三位中将となしかしいとしられぬよとひれのあるしらうど（主位ハ貧ナルコトヽ三月モナヤリキ）ぶそのつとれ心もとなきはかぞやわしよ命うんくうまとなかうはなれものこうわうて腹中わまじかぬよりのしれし時みれわもれて（今年ニテハ四年）三とせ心ぶうのうさ後よ西ひれしをこそのあれ（嵐吹ソラ秋モヤヤケリ奇イヽし）秋のはりの右れ大阪（四君ヨリ）いとあそうしきとれやまうでうよ

ぬかりをうなくれし心よんうこなう学をしてにしの京はれのあの住作の所よなんをひうれなんうしれもいとのびうきうよ住侘れて山里ようけうひなんと学をうれうとをしうれふたぶうりううこにれればさぶそあやしきれ（主来ヒ）所よぬしれしをみあうこれをりのうこう学をなげくうれうしうこの人よにぶぬれのみをしれて人よぬ（ハヒヒライフコトハハヤキヒリ見ヒヒヒヒヒヒ）をみんいうぶうりきぬよしれてれなくれとをそなうてれらんぶうきをりし

さとかうわ出りよ（原心）されくしとと（アツケリシ人ト）笑ひて
てよく〳〵哀しまさうわぬ（原羽）おされさ（チノアルカト問ヒテ）人まど
ろうるとゆ中ねのうれ〳〵いさう人やと
うし（原羽）ぬ（本連羽）ちゆとくしの玉ぞ抜し抜
ゆ（キヲツケ）ぬとらうさげようんとやゆさ（原羽）ぞいづ
こうぞ人よさとい〳〵てきぞ祈よえさせよに
とえうるく〳〵うとおりれ〳〵うみよいとう
祈てうべくだんとの祈うの中ねもれ
ふべうれどふうひなれくどおいだんと
さ波うぎ波よつけてもぐまんよこゞあ
まぐきをそのあんめのとるどみしと

ぎ波よいひなのて地せよ〳〵みどかてひ
祈ふ（本連羽）きぐ（本連羽）ぶとうれ〳〵うん祈べうれよ
しの京そおひ出れうん心ゞるうな
しえうぐ〳〵うあうふ人なとてう（多ハヤドヽ〳〵読コヽロヒヽコヽ心シリヨミトエヾシ）こ
よなんと学ゆ祈者のとげうるうそう
けしきいと哀よおまう人の前載れぐよ
きのひもなきうれてお系やうくいろ
ぶくかどふようきうやうよりうさ
をみうて心（本連）わかよおしきまぐらひ
れとうのタぐかのやと祈思出ものぐ
し作（原心）の中よ家だとくいふうのふた

（謡 春中日頭短歌）

思フトテイトしを人ニムスビケン
しかナラズテゾミヤハコとしキ

うるはしくとゆ孔てうのこゝろわしゐよりも
のなきことをそろと思ふわしさ海の
面孔よりうくゆもゆ出るれば
いらけよゝゆしゐあやこのくよにど
あしくよみしゐいしくなゝかものごく
なわりとの路中ゆ孔ゆ人ゆ孔ゆとハ
なくゆよりれゆのすてときそ仏れば
三位の君のらくさゐ孔てうのれゐわ
さくどゆふしそれしとゆのひ出れば
いそゝせよ仏んとすんとそゝよ人よと
くやしゆ孔なんゆゝなげよゆしゐ人

の心とゝのりきこ人りてうこばなのひ仏
りゝとゆゆそゆゆびゝゆゆゆゆゆゆゆ
けきうこうくよなびゝゆゆいと心づさなき
ゆさなゐみげゝゆゆゆくすくよな
ゐ心のゐひよゆいこやゝゆゆゆゆゆゆ
ばゝていくよゆあざはゐれゆべきゆゆ
ゆけゝみゝゆんくの心よいゆゆゆゆゆ
衣ゝそ孔心のゆゝくよゐゆゆゆゆゆ
なゐゝくゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
のれこのゝよいゆそゝゐれ仏いゐゐりとお
りひゐゐふゆ口孔ゆくゐゆゆゆゆゆ

なくなくのうちくりて風のやうなる
とこそうけたまはれて
みしかのうちをなどしれバタベの
そらもしるまきしかとひとりごちらく
えさ　新撰参ノ七ノ三　新勅撰ノ七
しうどとそふもひとごりて笠のみ
こうしかまりしうしきあるこの雨をあび
しるさんを思しくてすきにながき夜
とうちぜしてみてうの伊勢の
海の小島あるあれどとにあらーや
うのうとそしもたれらひ　ウシモ　キリ玉フラ
ウツセミの世ハツネナレトシリ
ニシフ秋風サムミシノヒツル
カナ

チヌナハノクルシカルラン君
ヨリモ我ソ、スクノウルル
ワイナキ

チヌナハノクルシカルラン君ヨリモ
我ソ、スクノウルルワイナキ

しそよりうをひとあり　中蝶心
ひ流をきてすぐようらなげきそ
こそくらうんとするとさすがに心ぐそけ
れいかほ　伊勢
まるわるやしをこと　羽ニ出テバ
ごとぬとしなどうとこそ　ホノ
うぐわうはりひみぐるまはすぐはまことよ　ホノ煩玉フヨリ我思切ナリトイフルナト
なんと楽しうしてきよこそしもわそれ　ホノ心　ホノカタヨリ云ヘバフコトシ
わそれ流しばいけうひなきやたがいハ
まうごとよ
蛍のせいうさりのとき

このえのようくいのちよたもるのやとれめし（遠所ノナゴリニサモアンジ）
うらわなくるるよみぐれうきれてるいとう
けてげしわ（宇治心）花ちのもめけをわるれれい
ぬとしなりしおうしうしるりやうやに
くくしぞいきこうしうもどけげうくとと
ふうぞさすぎよ（人ヲヒロウスミヘニヤヤシトシ）なしぞいみしな
つとそやこなんしと思つりわ（軒端萩）のかるけいこ
い（ノウウド）のおわとなんうよるとやあるの（原心）
やーやいよとらんと（モシキコヘタラバイヤヤトシ）おわの心のうちしと
なりうまこうの人のけーきしゆーけ
しば小恋しそ（交羽メヲフリ詞シ病ノコトバヲモハデ意故レシカハトトノモフシ）よりふ心いたわ
やとしけうそ
（原）かのうしし彩ぐの萩をしそどぶい（名トスルシ）落の
つごとをなにくけまうしたやうう萩
（ミハヨツケシ一夜ノ妻モナクハシ）おわトケモシラ恨ミモフシ
けけてみびてのこ（ミツケメニズシ）どそわいやまわて
おわしみけりそ（原ノ母ヲ色ニシゴリ名ノ羽シ）祇なわりわとこいけを
さわしもけしゆうしてんしそふ心をごりて
あしなうわりるおわのなれわよひそれば
（不可然トシ）
（新諸萩）
心うしとこへどうくあが出うしさすが
こそけくくちときばりとそごとにそごてそ
（邪ビ）
ものうそ見小けけそしてて萩のなじ
（ハ今ノ言信ヲフミ一ニ元ナハ、ムスホ、ルトト云ハ）
い霜よしそがしつていのけけりを返

ヨリズヘニ猶モアダ名ハ三ヌベシ
人ニノタフヌ世ニシスヘベバ

ぎてしぐれだにてういうさ風ふる
かげよみしこのか学て出てるうちとけ
てしひかしうくの人いえうとしてうまずこさ
さ海しきわしし風の心をもいわげと
ちくさうどくさかこうわしとと学て
出ちよいくうぞ花こうわずまに又しわざ石
いらぬべきれ心のすきひなちあうの人れ
ばかれのみびてひしの法花堂にてことそが不略合比丘尼
どさうちくよわちどいてうしさ地し
こまよず師うどきさを弥陀仏の
うぐわすぐをちるるぞ性光が見の河

光人ハ遠国ヨリ人トハミヘシ
かわの台ヒトクニ心ノミテ涙ヲ流シ
ヌシ

重明親王家室友原氏四十九日願文後江相公朝綱
書之見文粋生者必滅釈尊未免梅檀之烟楽天尺台哀未天人宿達五衰日此願文ノ詞

間梨いとうと紀人にてになうしなれ
学文師
ちこの師にてひまうしく学を文章だ
傍者し
ものてて紀文にてせれそのをとなく
にてをとひしく人のをうみ紀さ風よなわ
にうをあうぐ紀よゆつわをうよう表
げようきれ出れいばぐくくみじくくふ
情土羽
べうことをぐさうわとすみひ弥どれ深し
こばしていうぐ学うれいばにんん
情土羽
その人といかしもなくてうありなげを
むわうりんすくせのたうさよといひわ
作者ハ范ニ玉ヲ愛来シ
丑ひて法物ノ名
ひてうせさを弥うりうさうぐのそう

函をとりしをれて

なくくしも行くゆく秋ゆゑてひもはづれ

の世よりふけてみるべきまぼろ祖まぼろ

うをいづれの道よりさぐりておもひ

らんとおもひかねやりて初めぞをいと数

ふ行ふ顔中れをみ行ふもあいなくひき

くぎそうのなぞしこのひとりを恨

きを函のうりに行れどうごとにをぢてうら

出行をぞうのタうかのやうわるいつる

よと思まどへどそのまゝよえ初きこそ

ををぐるをとづきゆかばいやしとおもな

きをりたしうなるもどけをひをさぢう

ゆとやきをの行しらば恨をとうこちは

れどしをけをれけーさなくいひのて

なをおうぐどすきこけわさ行ぞいとど

美の心らしてりしずあ領れのぐれ

ぬきぐしきこが顔の者よをち学てや

ぐそのそんぐわけうやとぞをらわける

この茶ありすぐぞけりの京ものの山そも

なわりる三人そのよいけわて右をいと人

なわれぶひ角ぐてれを行をきをぬ

成りとなれこひりわ右ををる

がましくうひさんどんとそひて元(原)しら
さるもうさぬとこみひ除へばわっ(ま)ぬの
うとどうよえきこうぜ(ぞ)ぬさ海しくゆ之
なくて色り。元(原)い爰るぐるよみぐやとか
がしも除よこの国のほうじ之ぬて文殊
ものようれ有りし院なぐそひわし
女(直所)のさ海しおなぐ(ぐ)やうしてみしられば
ぬてわし所よそこうんものわ(ま)ぬみ
いれうんみるわようくなりめることを
出るるもゆしくなん。伊(中ボリシニテ)よのぬけ水云
月のぬいうちぬようぐうる女房れうぐん

此ゼ八文字モトリタ(スキ)白山
紅葉ノ錦神ノミニ
道祖神ハ信濃国戸隠大神ヨリ
黄帝四十余年アリ最末ノ
旅メ死ス延ヨトヨリ久旅
宿ノ守ノト指玉フ故ニ旅行
人餞別シスルシ俗ニ最ノ
神ト云是也

遠ニテノタミトテコソトゾ云テメ
泪ニウカフモクリナリケリ

餞別送物シ
ニテムキニテ餞ニモフシ
よとそうひけ心ことにせさんものふまうう(内証ニテシ)
元(原)
りくうもわざとたれひてこまやしおう
たれさ海なうう。あ(ま)ぬざ。おりくしてぬさ(秘蔵ノ旅ニテ道祖神ニ錦帳散米フニクリニ)
ぬどわざとがましくてうれこうりきも
(ミヌケ)
除
あふまうでのうあぐりとう(遠ニテノタミト思ヘドモ不遠故神ノ名ルトシ)狂よひ
そう神のくちよりうばこまやううことど
もあれどうさられればうぜれひゆり
よられど小元(原)してこうちきあれうで
わいきこうしゃもうわ
元(原)
蝶(モヌケ)のくしぶ(今ノ装束ニ)てうう交衣入れを

みそもあはれなり（深心 思フニルト心思ヒ心ヒトシ）思へどあやしう人
よにぬしたはよさいそもありてゑれめる式
とこひつぐけ（ゆ）ふぞそぐ（ゆ）日うり
うしもうくうちもこぶれてそれはけさ
いと哀なりわなゝめらそうしめひて

（源）きぬぎぬ（冬十七ヒ秋ト云ヒヲヒトシ）秋の夕（ゆ）言ふ（ゆ）（此一段作者ノ詞ニ得ガタシトシ）人ゑれぬ
こゝろもぬ

此巻ニ手ニツミテイツシカモミン紫ノ根ニカヨヒケル野辺ノ若草　以光哥名ノ

哥ノ名トセリ　源氏十七歳三月ヨリ冬ニテ

若紫　三

わらはやみ　瘧（ワラハリヤミ）

なりひらのみとの　加持ノ真言教ノ陀羅尼カシ

あまたさわぎをこなう　河原院ヲナヒシノ院トモ同事シ

よなんなまじで　鞍馬寺

とこなひ人をぞ　孝養　こうやうをつくし

て人をまつなりけり　宝ノ戸

ひろこがひのまを　聖

はいうたてはをとくこそ　四みくしの

めるどもゆふ　ばめ

ぐまりてひろのとみもまぐずとぞ

れど（原心）いでいせん（ぱとい）まひてりめせんとの流てれいこ
もよしもまもきこてめ人どもこてまぐ曉
よおそはやてみういい筋なわりり三月（ヤヨイ）九
たごりうれば京のゆざこわい皆さよ行
山のさていまぐさわそいわまてあて
すもまもこ高のたぐぜまひしかうう
みゆればうろたわき海しみひ流ぐば
所せさこれ分うそめてこうおばきれ
うわ寺（音ハ四九院ノ所ノ）のさ海もいと長なわうるたく
ふうさ岩のなるよぐひざる入めこわけ
ふのが（深）ぐ流て海ともも流ぐぐいと

（古郷ノ花ハケリトテ三吉野ノ山ノ櫻ハ二タヤカリナリ　章人　郭恒）
（三月八皆チリハテミシノ足愛ノ山ノ櫻ハ二タヤカリナリ）
（イカナラン岩ノ中ニ天ハカハ世ノウキコトノキコヌ又コサフン　佛弟子復善提住西天岩窟トテシノ思ヒ出シテ作ケリヤ）

いうやはれ流れど流れれき海なれど。
あれ（重羽）ばうこやひとひひりはやかり
まもこん今ハは世のことはひひの人ひばげ（先テ現世ノ祈念ナドハセズ世ツトメノ事ヨス又説験ニ方セ祈験ハ持ノトシ）
じごこのおこなひしすそわそれてはうと
いぞうかうおうまつてんとおどろわさ
さうぐさうう石こてみそてたううさ
だとこなわりうまん（大徳法師ノすく）きうのれうそ（等ナドハ一ツ同内本ニハ其ノキフコトアリ）
せ（忘ル、惡ニ云リ）そまつうぐうなどまうる程日たうさ
いうりぬそう（原ノ）立出てみそて流へば
こうれ所まて言こ信塔ぐもわうた
みかうさうこて（原羽）はれうれのこもこおなで

小柴なれどうゑたてきこゆ
なるやらうみどころ（屋敷）ばかりそこばくとうゐ
いなのくのそじょうとしとしの所へだれともなく
人こゑのんなるにぐ（當院ハ誰トモナシトハ）僧都のさしてとも（末ニモ三ヶ年禁足ノヨウアリ）こと
もわかう坊まうべらなる心ぞうきこと（原ノ羽）
そじうの前よそいなるあやまちもいのまてい（原ノ志ニテハ出ヲシナリ）兼相ヒ
ものやけうるきもそれみど（原）
の所ぶきこゆげなるわてなどいのまを出
きてあうしてまつ家ありみとるも
あてにうゆ（供人ヲ）こよ女そ有ル僧都
いよもさやうよいすん所ぞをいうる人

なんとくちぐくなりてのぐくもいわ
おうしけうる女ごもわきこ人ぞうぐ
なんみあうとてふ（原）えいをこなしし所ぞ日
たうまうよいうゆ（疱）ん（供人ヲ）とおぼうる紙と
うまぎうきもいれぬ
うんくはとなゆしばうれ（原）ぞ（供人ヲ）山よ
うち出て京の方をみやうる所
ぞうて京れこぞえこえうとなう
なうまうれうかど云よとうもはく
ふれうる家前よそじ人心るおしのこ
すとおうじうとの所へぞ（供人ヲ）いとな

三代實録

山蔭中納言中將ノ孫ニテ
備前守ニ任メ四ニクダレルコトアリ
又菅原貫方朝臣左中將ノ
孫ニ陸奥守ニ任ス

ミヨシノ大河水ノ立ヒロミ
ハラヌモノカラ波ノ立ラン

明石上人

孫婆コトスギヌルトシ

橋寺

橋ノ前ノ守護ニ

奥日本記
万葉ニハヨリ

れかりひ俗めべきこよりわうけハ心をやれうす
まのようなんはるるさいつぢまうてぐわて
はるつぞよ行わうさ海みはるへようそ仲
うバ京そそそ百（サノミジウヒモナシ）え（光国ニテハ国ノ守ハシバイヲ入シキニイトシ）ぬやうう行れこて（雑部）
てはるよいうかてうしうかてけくれうさ海さ
ハ入（チヅルハ）ど西のれけるこそを記けるとな
れぐ海りのよう（行末ハルカニ）ひゆきうよぬべこ心ばまん（行ホトラノ用ヒ意シ）
になくまてわうは後のせれけるもいとく
そて中くほうしまうそうくよなんん
ぐうるうとりせ（陳ヨ）きそれのひそハとそひ
ぢはけいうハあ（長清日記ニハテウストシ）ぐうるうは四ぢをるどはうう
（下野）

代うの西れけるこうどよういとすてさる
心ぢ入みそなれどさうようけいぐ祈れ（入道ノ身ノ述懐ニテニ）
くいぐるよ高けうるぢよあうは人の（ヒトリ娘トシ）
とうよそあ（ダイ）しとそれて（光根ハ心ザスコトアリトシ入道夢ノ告アルヨリ四母ニモトヒザスシ宮仕ノ心モアルベシ）その心ざ一ぐうぢはひとそれ
つすせたぐそ海よいう祈しけるひよ
ゆひぐんーときて行るど安ゆしハ西（陳ヨ）
しかーと安ゆ人ぐうハ（由ニヨリテハシ）ーうーうれ（王ヒハ石ドキシ）ぬきさ
きうようりうぐさいれきこひそなるう心さこ
くうやとそわ（記長清）ハうちまあこ
のけそ人うわこ（今年ノ除目ニ叙爵スルシ）うりえうなう

ものいとすきてうりのなればうれ金道はゆ
いえんやうりけべきこころはあらんとさたなぞ
みうるゝんとそしあへりいたやさいそし
のなるびさんちさうくらわさうあるおひ
でゝすりやうりかやよはとさうひらん
うたいはのやんどとなれあくらわ都う
れて弱とわてまうゆくこそりてな
すうふなれなれ人よなりてゆうば極
思やうてしもえをきてうじをやうど
ものいうわ恋いはの心あわて海れてこまで

アハヽスムソヲヲミルメヒ
ハスカシリ儀ニ生クル
ウカノオソリカル

やうゝあるひ人そこれみうわしもおしうう
ようなどの弱てうでうぞおもかり
うわ供やうしてもなべてうぞもてひが
ひうとこのこと弱ふれ心みれハ年とぐ
まんやとみをうられうぬどをてせ
弱くびなわめくれうよいあうれうやうせ
のいんとあうとうどいとこれものげみど
くうれうう後よおそうしうりうとこよ
ひいなれをうびまうてそさも
弱へとやすさもうとうと皆人やすきみし
うふ猿○もなうひれう○ばすすよお

しくてさばかりは曉よりとの殿日もいと永
きよはれぐるまれば夕暮れつつ
みるよりまぎれてうのうでぎれ
もとよりいでぬ人をいかにせん
恨ぬるもそのぞ人へ恨
はいはしおりてはこなるあさ成行そぎ
まりてをこなるあさ成行そぎ
うあげてそれそまつるわ中の
ちらよりわそけうそれよる
ばをきそとなやまりげよるぬる
あまえて人とみしぞはかりして

花山吹ハ
ミテウスクケベウラ黄ニ
鶯山吹ハ
ミテ黄ニウラ紅也

いとうるわそよやそれどけつつ
よまれどうとれうけうげよそれ昔ハ見居キレシ
しるすもしかしこよなう
いまうしきぬれと長よみ給きらげな
ゆわのそふなうるよ十ぐらわしやはんとみ
えて白はきあ山ぶきのなるる
きそそうまきうあ女ごはまきみつ
ゆぐもよはうべくもあぞ
されみてうけうげのうちなわ
ちはあぎをいろげうやよ

イヌキハ犬君トヨミシ上臈
スベ何屋敷トヨミテ中下臈
スベ何君トヤリ氣シ

くもりてこのかいとあらくもりなりて
そらなのよごとやわらべとともに
うまうらとそあまをのみわげらよ
すこう学てうらかふ（級名）
（業羽）すめのをいめきがけ（眼）つつあせごれ（眼籠只ナゴノコトナリ）
よこめりつるものと
ゑうこれめらおとれ（名和之羽）まいの心なりの
うるわざをしてまいつまるそえて心（羅河海）
ぜきなるれいぜうこへうまわめうしとあり
きやうくなりつるものをうそなど
もしそみけうれとて立てゆかをゆう

らうとなるくめやそ紀人なるわお紐を
のめれとそ人いるいけこのうろを
なりべしあまえそあれおさるやゆ
ひなるれし所うれるあがかくるそ
よかりめういのうらとばなるとおかさ
らそすめそそひ所かどよはしうこ
とそとれのよきこるを心うくとて
こをやといへばいあるわけつきいとら（業）（五戒羽）（恩）
うげそまゆのるるうちけわいは（三毒アルヲイミ）
なるいやりうひいつきかんざい（ミザレスベキナリ）（ウツノヒトし）
ドううけうあびゆんを後ひき（詞）（行）

人の身とあとまわ[illegible]ざわろく心を
[illegible]て変ゆく人[illegible]ことのようにそまつ
れるがまもらふ[illegible]うりのとてもも
泥でなつあまよ[illegible]えうこ[illegible]きなでて
けづることをもうさざわ[illegible]どおかしの
れどやいとえうなうぬしに[illegible]衰よ
うしろめたこけもとうばわよなれば[illegible]
らぬ人しわうものをこしめ[illegible]えいナニて
ものよ[illegible]ぬしやどいうぬいえい
[illegible]そしてうそ今をのまみを
てまもしばいぞよにおこんとすんとそ

いうどくなくをみ[illegible]すどろよかし。
おさ[illegible]ぬ心ぢらふもさすがようちまもりてふ
しふうてうこ[illegible]ぬ[illegible]
ろうかをけやくとそうこばれ
[illegible]てそ[illegible]ぞきえんそなれまぬう
[illegible]ぬ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

けうゑこのうへはひごろのよ源氏は
中ぬのわらくやしまうなひよぬしはひ
ゐうをとゞいまうんきつけ行くいうゞう
ゐつひはれはえをり侍ゞてよ侍ゞら
れとうてひうもまうゞざわうとのはゞ
あるいうゞやとあやをはをくやみつ
うんとそすぐれおうけこのせよのをり
はひう源氏うゐれいぞよみをり侍んや
ゐはをそうゐ法師の心ちにいうゞう
せのう少へうをれよひのぶうくのはあり
さ侍ゐいゞでれきうをこやうんとそうけ

とゝまれば源氏ゐ
けうゐれひぬあれうくをみ
ゐきをのうてうくさうまゞさくをも
うゐうゐうゐくんひのかうゐうとをゐうよとおうゝ
ををそもいとうけうわつちごゐる
うにゞうゐんうれくのれいをりよけれ
のうくまゐうもみをやとうゐ心ゐうつき
なのうゐうりゐうゐ侍ゐのれでゝ惜光
とゝひぞをそをゝどなれれうれば
やゞををゝ侍ゐ過字

只今うん人ゆさよ（ツイトヨシ）あどろさおろさうてぬ
べきをなまじひ手よこゆり行とて
ゑりしやうなどうあびさせ行つとうれ
しくてひの人てうんくさのかけ中ろ
しこの塚よりそもまうけ行べうれいとか
いなれとゆの人つる（俗言）いやうすよりの狂
うわうてやうよりづひ行とくびさ字
てうんぐうう行れいんのとてのまうよ紙よ
うるひいわ行つまどうやううんの言て
あうもうぬみうちなうべきもいでう
うわいとあううるひ行けくみそうんい

（業平東国巡上ノ事ヲモケヤシノラン）
（業平ノ在サノ庭ニアヒシ草ノ庭モケヤシノラン）

ふうるびけうつう、（俗都ノ言ヘ中ヤラント思フトシ）まそうるふもとの行
命うすかうち俗加まつう行つう（俗言）法師な
れどこ四うるづしくんぐうしやんどなく
せよあもうれりうんうれうるぐんうれ（俗言）
ありさ反をうたるうかばもうくこもれ
ゆうおどのれ地法おとやうて行てあなで（俗言）
紫のいりわうれどそうすぐうれれのな
ぐれもれらんぜさんときちよきこうのう
ぐうめまうくみぬんどよくとくううびさ（原心）（俗都ノ元来ニ国ノ人ヲ見ルコトクシテ人ノ気ニシタメチキ、ヒ一故ニ人ヒトシノラボスト）
もつうをたうもううかばせどけうれな
をつうなりさ反もぞうておうてぬ（紫上ノ）

（時節ニヨラズロハキヨキラ云シ）

げにと思ふことにはあらねどおなじ事
事をもうしなひて世もなきに
なれば世はやがてはかなきこと
ろみどもまもりこうしてうるはしくて
げにさてはいりあそびたるきこゆる心にて
くうりわいでうるはしくてうるはしくて
みちくるよ源のれをもいとことろれば
うらもしなどもしかばかりのそうげんの
ものなれば世は憂はせのことなどまた
こそはかわられたるのなどおろかう
あらきなきことを心をつかていろまぎわ

これをなひなやしべきなるわまして世
の世はいとうとうべきなれば世はそのう
うなるすまわもせまかう言て行末の
ちひろはもしげ思ふことて悲し
ければ源羽こてよりのしかはいれよりぶ
ふなんこひあるをつくし卯めをかはしる
わひて源羽うらけけるれ美ふるそ行
なる易さもれひてもれ心をとりせきを
めぐし故掃寄大納言はよなくて久し
く成行めれば源ハえとろしろしそのか

のうこうなるべしがいもうとよくぐうされ
あぜらうれて後世をとひきそ行ゐば
ごろうづかとなるよろわるく京よりまいり（俗都禁足ヲ云 匠君名リナサニ名ノミニテ家ニ毛リアリト云）
て孫ばかりのごろうこうよこもりて地し行
なわと雪し弦うれ大納言殿ひそ地
し弦ときて弦へしハすきくぐ毛ぐさこ（コハ白地ニハ但意貼トミルベシ 紫ノウヒロミトモラヒヤリ 玉フニテ和ベシ）
よハ有ゝでまやうよ夫ゆうなりとそ
あてよのくこ人ばな（俗羽 紫毋ハ）ひそあうでひそわ行
うせて山十よ（コヽニテハスベシ十余年トヨムベシ）行人へ（俗羽）なわ行めゐん故大
納言ハ（紫上毋ノ父）うはよ（紫上毋ノ父）よしてまつ人みどうこうい行
きは行とそのかいのごとくしも地し行で

大納言
こ行りううばくでは左衛ひそわりそあ
けひ行りうどよいうろ人れそわざにゐ
（紫上毋ハ式部卿宮ノ父ニ紫上毋ノ父ニ紫上毋ハ式部卿宮ノ妻ニ）
無ア（後ニ式部卿ト）ひてくこひつされ行
りうをもとの小れくこ面んごとうくこそ
てやそうぬことおゆくてわけられのを
こひてうんばくうう行ゆ地おりひよ屋
まひばくゆとめよひくくみれくしうどり
かうきばそのるなわりうしそうてあも
けここのれそらうれ人（紫毋）みしうゆ仮ゆ
えうゆうやしいとばわれよみまかくく
れ行しもあてよおうう中くはさうら（紫ハ何心モナキシ 第四十日 進心）

秋ノ野ニ行テミルベキ花色
メレサカシテモ折テキツテン

心なくうらうらてひて心のまゝよそ〳〵か
りしそめどやとおぼせど（源羽）義はゆ
ゆかしとうるれいとでめゆかうみもなれ
うとおされうつゆゆ情のれうしてよて
まかりくてこひうへいなくすゆ（俗羽）行は
そ行ぐれもせそぞそれはつけて（巨君）
こひのもよかうんよこひのすきよん
ゆへなげきゆうとときて孤（源心）されぞよと
おぼうあや（源羽）ふれどおさうれいう
しうよおもかりそべくきて（巨君）れてんやん
ぬ心ありてゆさうてゆ（義上）ふこしゆるゞ〳〵

せよ心のえまぬこやあんひうずこれ
みのんまうぐにげなれかぐれけのの人よ（イヒナヅケドノヤウニアラドシ）
ゆ（巨ノ俗合又ホシ）ボサントオキシノ玉てし
がなぞこへてうやなどのうへ（ヲボサント）
ぐ（俗羽）うれうべきこおぼせどとなうれすぐ
ひばよいとけなさ程よゆればうれ
そもれらんじぐうやそもくぬくよ
もそなれておとれのもうれぬれば
くうくいえとう（イハケナキ程ニたんニイトハ）ぞれをどれの
うようてひゆてやしさんしすくよう
よてりのこも紙や後しうれば（法師十七ハニ名ルノイハ又し）わ（源）ゆさ
心ようぐくてうえうもやれ孤ぐ。

信羽
あげて佛ぬしにぐしたてまつりて
初夜
やいまゝぐしたてまつる
六時ノツトメシコメラヌテイミ(メリ)
ひとそのがり行ぬ。
信
えいこゝろしいとなむ
しきよ毋そう。うらそさ山風ひやう
水ノミヒメ
よ。ゆうよ。滝のおとをしまさわて。
ゆう
くきこゆすう。初夜ばかりゆうど。
信都ノたぐ
弥のさ
えくそうきこゆるみどすぐろう人
しかうゆ。袁なうわまうておもかめて
そことおぼうてまどろまれ。ぬそや
とひしうども。来しいてゝ。ゆけよりり。
信
ゆも人の祈ぬけ。ひとうていとあび

松尊ヲ
スノケウクノモドニヤカテ
ナリ名コソ心ニノケシ

法華経
從賀入於賀永不聞佛

れどすぐのけうそよひきあうさ
ゆかのきこうえなうう。うあらそまる
くとなひてそうなりとまれて
祖もうくらうそしてとよそわ
屋風の中をそうひきあけてあつ
人ヲメスナニシ
とうしの人ぶかぼしうき心ちすべうめ
内ノ女都きしドノ
れどきこうぬやうよいとそめざわいづ
人のうすう。
佛
ゆとたどうをきて。佛の此ちうべ
信羽
てきよりそしさとぐまうしうう
ぬとの祈ばいろ。のいとわうあそう

よう（内侍）りぞんこてばひもそづしれば
いろりるれ（伝ノれニハベトイヘシウケテイヤれ方ヘト云シ）ばようはあかれけるく
ときこゑ（原羽）ばようけけうとおぼゆ
きれんしことわうれど
初音よれ（紫ラニハ前ニ女納言ガ哥ニ紫上ノハツ草トヨメリ）のうへをこうづ（原）わ後
袖のそでも夏ものうすもそしうぬときこえれひ
てんやとのの（内侍）おきてよりやうれそこれ
けのうもくべきこんもゆしれくぬさぬく
きろ（僧都モ次ハ申セリ）ばけうをれようとす
ゆ（原羽）ものづらやうやうきこうゆうん
とこひなのうへとのの（内侍）ばうて雲ゆ

（五君）和歌いまめこれをやうづうかどよ
おもしろとぞおぼそんさうそいうれわ（前ノ哥ニ）
う草をいぞきてうへほとぞときぬぐな
やしきよ心もみぐれてえ（程ウフレバナカケモトヒ）うれだなさ
けうとして
（五）まうゆこ（好色ニハトリナガシ〻ヲタバ今夜バカリシ秋ハ山ズミ思ヤリ玉ヘトシ）しそうれ雲げさをみ
やまのうへよう（人ツテハナラヒ玉ハメトヒ）べざうんひぐらゆぬ
とし雲（原）れぱてうれきうそこと
まぐきうよきこうてしうるついでまろ（對面シニシ）
なんぐうでけうてしうるついでまろ
くうてきうすべうとうんときて

高礼集
ムラク山ノ若ノ衣ニクラベナン
イヅレカ恋ハヒボシニナルト

ナヲサシハイトヾヒガタキ秋神
秋ノ恋ナヘフキソハリハイ

ゆゑ[illegible]のまゑひごとにきて酒へうちうちと
ことづてしきれはけうひよなるごとをうは
うへきこえんとのゆうへはたゝ[illegible]なるうもしこて
おはせと人々ゆゑ[illegible]げよわらやうちうちへそう
そしあ〜さまややうよのれてこけう
とそおきわしわのへ[illegible]うちけよなさ
ちううとれらんぜてきめべきけいそうれど
心よいさしゆゑて[illegible]孫ハ佛ハをのづうとて[illegible]
あうしく〜ちうちうしけうまけまれて
ごこしよしえうち出れこばけよちひのへうち
ぐうこれいぞよう〜まぞのれをゆきな

ほとゝのうて[illegible]ものれ[illegible]ふようけれ
れあわさ段をうれすぎこれひよりんれうちりよ
ちがいなんやゝふうひなれ程のようひよ
てひうまうべきんみしうちとれはよう
れだあやゝうさうやうして年月れ
そうう〜れおなのうれよゆ〜れなりを
たびひよなれれ[illegible]とうきてまりきを
うありとありぐうてうんがうれんれ
ともちぐうぞうち出りのうと実之れ
一ぐうとうれうひのへゆづされとなが
らしきううひがへうとうどやはら

ひとたまうんやーきかひろ
をこのりべよすまうんはれどいとまぐ
ふひろれ行ろれて流ゆうさうこ
もはぐけれでえうんけれとぐめねわ
けうとの流ふ肌あ（業内ヨリ礼トシ）ぐつるーぐそうけ行ろ
ぬをこうつせうかーてぐーでくめう人
ろさう後とつる心の祖とち後ぜよし実て
流（どいとにげろ流とをさもてぐの流
と言て心ろけーんれてへもろ行加か
ろーぬれは（原羽）ーうーそあ行めれはをの
りうろんとそ（原ヨドトシ）て流け（原也）瞻ぐよ水

（原）

止観四種ノ三昧アリ
常行常坐半行半坐
非行非坐　四種也
法華懺法ハ半行半坐ノ
三昧ト

一説此哥モ原ノ九哥ト云リ
イニシヘノ野中ノ清水
ミルカラニナツミノムニモノハ
ナミタ成ケリ

よ流ハ法華（ザンゲ）三昧をこうふだらの懺法の彩
山ろーよつさうて実ーろーをたーとく滝
の言よひぐきあひーろ。
（原）
吟まーふみやまをろーよ美ろて渡りよ
かそーるの言ろ流
（使部）（サシヨリ）さうぐーよ袖めーるる山水ーすあろ心ハさ
（原ノ哥ニテナテハサシヨリ、初シメ元ニ五アリトシ
ボハスミツケタレバ年七テ不驚ト云心也）
そぐやハそうなれ行よりやとー実流
明ゆ（原）ーぬとーてるーうさをみて山の色ども
そこえりとろくさーづりあひろ名も主て
ぬ木草の葉どーくーよらりまーに
しきぬ主つけりとあるよ志のてずをいろ

くもゐぞらしくみゆれはなやすきしま
ぎれてぬひどつを（伊都ノ方ヘ）うごきもえやひど
こうしてごえん（護身祈禱ヲ）まつりをされるる所の
ことうすすきひかめ（老人ノ声調子ニスギズ）ろも長よくうけ（功ノ入リ給ヒ）きて
だよよみられむ人のくどまつりてをこ
うわ流へうろこびきこて日ろわとれた
ひあり伊都よりてぬさ後のれくぐり
みやはられと（ミヤハラヒ）衣のそこまぐかりぐいとみこ
ゆ（伊羽）ごとしでるりのしひ（集ロ人）ろ伊てれ
とりよもえまいろ伊るまぐきこと中く
よもそひのくら流べきこるなどゆれて

（伊都ノ方ニヤ）ありこうきまいりて流（山伊）水よ心とまわ伊ぬ
日よわあがつなじものくるとうこけれ
ぐうんいまけ家のありもぐさぐまいろえ
（源）やくよゆきそこうん山桜風ろわされ
よきそしうべくとのれりそうこと
ぐひさんうしあやうよ
（伊）うどんげの家ろえうる四ろしてみ山
ざくよそこそうて
て時ありてひとくぶ孫とゆれ伊（ぐ源）かをと
ぬとしのうぶひ（四特ノ聖し）ぐくうるこうる
（聖）ゆ山のれのこがそきれよゆてぐ

みぬ世のうかとて（原シノ礼ニ比ス）
ちりぬれとうしろ髪（先徒ナルベシ）
ひとすれはまよりはとこそ（獨鈴）
はるの雪
はるのやとくとくとこそ（百詠國）
はるのやとくとくとこそ
はるのやとくとくとこそ
はるのやとくとくとこそ

そしら宮のけしきともうんとうあ
てのことあてなりとうらやましく
思ひ車よりそまつる道大阪うわばばちと
なくておかしきまでにいろことこそ古し
人のくゞ玄遠なるどたのまこと有り故て
駿中わたり中弁さうの宮どらしきを
実ていうべうれれとも法ふまつ侍
んと思ひ出ふをあさましくとうさ
あること恨きこてていとうぎ意の
げよこどしやそこばしらうう
侍んかねわざされとの故ごれ

真実ナラバ行末ラミントシ

蔵人弁しかの他殿ぎし

催馬楽、
ノッタキ寺ノ前ヲヤトヨラノ
寺ノ西ヲヤ ナドアリ

れ苔のうへなこめてうこけ有りあらう
水のさ波などゆへあり駿中もとう駿中
わところなりうう笛うう出て吹すま
しうり弁の宮扇そうなう打すし
てこのうの寺れらうやとうふ人
うわいことつう宮どらなうを源氏の宮
いううらなやこて岩よりわあつう
いたびうくゆこされこわさ後ぞそ伝の
どかもめうつうまうどわけ。例のひら
きこうぞいどんさう笛りもこうもき
ねなどあり侍故琴うんをひづうりてま

琴ノ調ノ前ニ鶴雲井ヨリ
下リ池ノ魚浮ブト云コトアリ

ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ　ゆくへ

いとうかとろへよりとそゆしと受
しうしうひとのうとわけこ
とおどこしなかくしく養しぬへ
ぐあわるどふしうべきぬよそあれを
こがひのらいはけりておぼやけよそろ
しうれぐりうこうとうのれを
りうかとのまうひのうくはしへも
とこひのつまどをびうれうきのいぐ
とおりひてぐわてうんのどやよ一二日大殿ノ方へ詠引
うちやをそ行へとてやそれをうれふ
まうんとりへばさしもおがうのどひき

れてまぐそのふわがれ車よのせうれて
みづうはひきいてをりりそうづき
きこのへうれ心だへの袁つうをぐすぐよ
心ぐうくおもかりうあしおうまよ
らんと心だひうのて久しくみうまいぬ
かどいとぐをのうそうにみぐきうひよ
わげをとのへれてうめ志例のういうれ
てこみよもいでれしぬとおとぐせうよき
このてうらうそうのへうぐを志よ
うきうものひやまものやうにうをへら
れてうらうぐうきれとうくうは

そうてはしの人ぐ（原羽）ありくことをうらな
やまこらの物ぬとしきこてんをいふも
ありておうーうらいくくまをぐそな
れうをせよいしこうけぞうとくをづう
しきはよもかてそうーのうをよを人
てが心の色でそしまをとをうくか
もをぞよはぐいものつをれけをき
をみがやうへぐうをづひ待をしいぐ
とぐよこをれをぬそぐーしぬ
しなれどれうーうをきこてはふ
らーしてこをぬいつきぬやんと

（君ヲイカデカモハン人ニウスルモノ トダハツフキモノトミラセン ウスルヲトミヲカケ君ヲシドトハヌハツフキ物ニソ有ケル）

をりをよみをこを物へうまをいとをづーしげに
けをうをりをりをげうれをうらうまれ（原羽）をくくの玉フコ トリカウヲれト 恨玉フ）
くいあをまーのれしをやこをぬいをどいふ（トハ又ハツフキガ ヲコトハ本事ナ ドニハアルベシト）
きこをことにそれなれ心うくものれをそ
うれ（常住ヲ云）みをとれよをしをれれりそなをと
りおがーなをうりやとこを函うう
ざ函よ心をきこうやをとをぐあしかーうと
しなをわうーうやいのちぐよとをそうを
のかまーよ弐れぬ女（変）女ををとしいれぐぎ（恨）
をしぐうひかをそうをうらなげきをかれ
へうしなを心（恨心）をたきこなきこやをんを物を

（余ガ心ニカケフモチラハ何ハ人ヲウラミモセン）

げよりてこうせをおがみ
とおぼゆるれとくされるひぐんなどの
れゆしさにげるれ程とろへうし
ことりぞうしいひしらうさとしもある
るいうよう面へてうで心やそくじんとわてい
けりふのなりぐさまもみん兵戸れ又い
いとあてよなるまいうれどにうひやうに
などとあるぬをいうぞうれ一ぞうよ笑て汎
けるんひとりまさいだうれいうやなど
おしかをゆわいとひつまうきるいうぞうと
なうおしかをゆ父の日心をうれて傍

兵戸ノ孫ハヤシヤハキヤ
紫上ハウツクシキトシ

朝ニダキツキヲノミツル櫻花
日ノヒカリウロウメタリニ

都よもかのうしのうべしいまうんよいりて
とうれうわしれけしきの汚まりさにぞ
のふうさ面をもえあてうてはぞうう
にをなんうぞうきこゆうそしそうぐ
さぬ心ざしの程をれらんじたうだいよ
うれしうみどあうりなるらいくひきしぞで
西うげハ方をもくうれぞ山桜心のぐうう
こめてこううどまもの風もうろやうく
うんとあわれてるどいきうりのてうてう
うくをつてつこのうう夜もさぐすぎうう
れやどもはやもこのまのうう心のる

夫ノ字数ノ過半ナシ云

ゆてのれしとそなとさわみしもしのなな
されーをぬ[illegible]へさせのろよきこてさんん
ろろろうんまぐなるにろづをぐうよんうぐ
ろうけぐけまぐざのればうひろうんぐそし
げう花のろうなろきいとぐうろわろうと
わわ。俤歌のれろへうしもおなぐさ後うれぐく
らなぐくて二三日ひろて惟光をぐなれ
のへかの物名れめのろくいふへあべーあてく
ろくくろうんなどの紙ろてそさしろら

奴くな後なれれ心うれさぐろわいろけなげ成
しけろひをまりうなぐるぐくみし後とお
りひやうもおうしわざとうれみをあうを
俤歌しうこまわきこてあの物名よをう
れこしてあひうわくくうくあもりの紙
さ後おほうこのれありさ後みどううとで
おほうへうてれきぐくうひけぐれ
どいどうなれれかどをいうおばそうと
ゆしううんれしくあがりうれ文
うもいと後んごろよいおてうれれをうち
ぐきうんれみうへまかしきとて例の中

アサカ山カケサヘミエル山ノ井ノ
アサクハ人オモフモノ物カハ

名レバノクニノ名ノゲケ浅シ
神ノミエル山井ノ水

なりよい

あさう山あさくも人をしぬるかな山の
みのうけもろくろくんかれ

影ノ所ヨロヨロ

ろくれのそくやしときくしら山のみれの
さくなるしやうげとみそべき惟光しおれ

ゲテラ待シ(ギトシ)

じとをまゆこのろくひのふことろわ
くいこのびすぐてて京のものよわろれて

本書ノ羽衣ノ北ノ煩今ヨクハトハ

うんきてさんすべきことあるを心もとなうお
もうも菱つがのうめやなやこのことありて

イニテ

まうぞのあてうのおぼつかなごわうげき
ゆしのふれけしきしいとありうこうて

原

まつろみごうろうありごうよと心しあくれ
まどひて、ぢくうぢくうづみとまうでれて

ぢ四そも星そしひろいたくぐとな
ぢろうてろれで王代し余殺をやあうき

原心

のろ命ぐうじろわけんいとわりうくてこそ
まつろ程さうてくといおほしぬぞわびき

変重心

や家もあさましわーとおがり北山所密通アリシ出ぐよ

常住し

よとうものれのろひなろとさてぐよやこ
うんとふうろかぼしろいと心うくて

兼心

いうぐきこれけしきなりのしびつーう

原心

いろうげまうわとうそうちとみぞ心う

建暦二年三月　定家卿

ヤドリセヌ人ノ山ヲ限ツヽ
ハナヤ春ノ夢ノ松ヤ
ユヽシク人ニクヲブ山ニ宿モガナ
暁シラヌ夜ヤサメヌト
暁ラヽ小フ急トスヂヲル

うちつけてなのりてなりてあるものなれ
人よにもあらぬとなどいはるるこそ
うらまれぬ　（イヨく思ノニスサヒノヘルトヽ）
ぼうとうとうばしとそ　（ミヤト交セバ）
ぬの山よやどりもしてまかりげうれどいやとこたへ
いくうつうこうづうあそびうさまうう中にも
みてもまた遊乗れうる美よりうよ
やどまうぎうくこれ身ともれとしたへて
せめてふさはしさはすぐよいうづれる
せづこわよ人やはうんたびひうくきつこ
をさうぬ美よなりてしもかうこぶれう

（上東門院一条院崩御ノ時ノ歌）
（遍ヨト人今ハキヨノ盃ヲキフテ
イツハ君ンニノモミルベキ）

さうはもいとことうりにうづけうて今夜の月
でれなうなどいうきこあつりてきうとの
よおんうてなのきうよりうしれけれ
つうあども御のれらんじいれぬようのをは
れじたの〇のとなのごうもたらいううお
もうしほれてうちへもまいて二三日こ
ありあうすれば病悩ノいううにうとれ心う
ごをれべううしおそううよおもれれ
文れれと思ううきあなわうとおぼ
なげくうなやうもまきわれてこ
くまううのべきれひうきれどおもか

もてぞまことにぞ心ち何のやうにもおも
しうきぬいろうにうとく人ゝ(懐旧ウシ)れぞおぼえ
ととありけれ心うくいろんとのとあが
しかぐうあつき程いとぐあきしねぐわれ
そぞ(懐旧シ)ぞこつきよなりのうへぐ(三月)ひとをうきかど
そ人ゝみそまつてこがひろよのさま
きれそせのかど心うしくいとひよゝぬ
となれどこのはまぐ(何トウ考ヘシ玉ハヌトスベシ)れそせさせ所いざわ
けうこゝかどろさせゆ(変重ノ所ニハ傍ミノ)わが心ひろつよ
をうあがしわくこととありうりれゆどの
かどにしきこゝれうまつてなのごとのれ

けしきとときうくみをうたりうれわれとご
の年(三年ぬうの形也トスベシ二人ニ三ハモリシ八年ト年ぬトハ)ぬかどぞあ(あと)やしとんへどうきみよ
いひあくしべうよあくしの(年ぬ)れのぐれごうり
りうれそくせとど命ぬいあさまうしとりう
内よハれぬのけのまのぎしうそごみよけしき
なうおうりうりうやうぞそうしく
しき(三)人くしさのうあひりうい(内)どあれ
ようぎうあなうしおばされてれけひみどのひ
なれしそ(変心)うあそうしうあとおもかそこと
ひよなのしか(濃ノ)中ぬのそうしうあうさ
ぬとうう美とみりてあくひりのをぬ

そこなたの人びと（源の天子の父名（キト云傳し）とうびなり）さてもみぬ
すぐれたることあるを（ウツロヒ）なりそのなりたるひ（次テ）
めありてけしきしまめせるべきことなんなり（伝説ヲシテキトシ多クハ源ノ
ふるまづらくさてて（源内）うづもれ美なる　みヲノ天子ノ名ヲ
ふるくそくのれことをうつりけ美ふま　ナスヲ云ヒ次ニ
でまくくよまつびるとのれて心の内よ　ア八月月夜ノ
いろることなんとおがわるよ（変）文の　敬セバサニ不
れときこのそりさうもやと言て　可言也
ありもるふまとでそくいうづきこれふを
けるきそのくどの命ぬしをよいとしく（シロミキ）
けけうわづくさまさうてさうようで

うるべきことなりしそうのさひとくづりの
れるりのうるまさうなるうしもてきそようる
七月（後妃七月ヨリ七月ニデ七ケ月ナリ）なりてぞまつのけうかづしう衣
そいとぐちきこれおりひのかどぐわなし
そこうかつるぬあてうちなやとおもやせ（変）（胎）
ゆうるまさけよにろりのなくめぞうう例
のかけられこ（変達ノ九月ニ天子ノ）ばかくしてのれしかそうてれあ
びもやうくおしき（秋風涼シキ）ば源氏の恋し
いとまなくやうまくてれと菊など
さ海ぐはれうまのせのふ（源）うづうてと
のくどもびづうさけきのまり出るれく

諸傳小集、

ワスレナン今ハト思フ時ニコソ
アリシニナシ物ノモヒスシ
出テイナン誰カ別ノカヲ
カラン有シニナルケフハカナ
シヒ

家もさすがなりしことごもをあはれ
にぐけりうち山寺のくいうちうて
いで流よりて京のれそこそこなどて
のれせそこなどありあなづ（イトニゲナレト云ヘ）さ夜よ
もとそうなるこの月ごろいありしよ
さうぬしよこと（事尊ノコトコヘ）くらくてこゆ秋のそ
忘れてこいとぬ心がそくてなげきしの月の
おりき東ぶらうて（住吉ノ方ニヤヲボツカナレトヘ来ヤドメ、セノ所ヒハ住所デナ）
孫ゆうを三ぐれかいそうらそくあてすう
所い六条京極（ハ京ノ北ノ方ニウシ）ギヤトし）ものわうしてい内どわうれば
こ程をさ心ちそうよいれらう家の

こぶらいとぬりてこぶらみしうあり
例のれもよそうれぬ恨（ウラミ）そうん故梅（ウメ）祭の
大納言殿家よ侍り一日（ヒトヒ）ぬのうそうよこふて
ひてはうばうのあまうのいうそうよそうあれよ
うれどなにどと言てぞとうんりて侍
と変（ヘン）れば義（ギ）のことやうぬべうりりをを
などうさなんうぬせざうしりてせうそこ
せうとの所で人（ヒト）いれてあないせうすわざと
くちうのううこうこいてせうれでいりて
かくれとうひうなんおうこうこうと云
よおどろ（驚）きて（驚）いとうこうこうこと云れ

はるばるとのぼりくるこそ
はひまれなれば（珍）いとうれしけれ
いとどしくうんでとしのくまでと
さうしひきたくろひていれるぶと（ミガヒキヲ云）
げよ行れどうこそ（行ヌルノヲヤメヒキ）わとどうとそなんの（不意又不慮）
ちなのくしぬかうきおまうしあるなんと少少
げようくうあハ何よたびしておぼさるぬひに（羽）
ひのくさなどうひなれさ後よしそ（業ノコトヽ）
なさんをのふるはくまれ行てうんなやまを
れことをしくくとしうけれてうざわうく
おぼけうなきみどきこて流（花月内ヨリ云）みぐわ心らて

流しうくのこうぐうぎわのさ後ようり
行てとうくどけうく之ようやのくうて
こづしぬ力しさんをめとのの（業上ノコトヽ）はれうことのす
ぢくぬさうもおしかうくうぬやう
行くぢうくわりなれよひさ行そうぞ（業上ノイトケナキヲ云）
ずまへさをのうの（原ノモミヘイヒズ）こうぢくく心がそげよみさ
ちへとくうん孫ぢひ行こちのかぢよそい（後生ノヤハリトセンベキヨシ）
うまくへられぬべきみどうりくうぬ（悪）ぬとらけ
れべ心がそげうれうれ名ぢくぐきこてて（ヨミセンナリ）
いとうぢけるさわざるも行るか心（業）ぢ（深）
よくこうわも学て行のたべき行なま

しうばとのの御（源）ぶれよ少のてなに（羽）ら
あさくこひ侍へんことゆへうすきぐし
さきを海をみしまうら（山ニテ）ふうの松りよりみな
ほれやしうわ袁よんひきこあるもあやし
きまぐ世せのことよハ覚て侍ぬるとの
まひてうひなれ心ちのこしをうれいを（業）
けなうれしきれひとを忘ぐうとのの
へぶでやうらげおもかてぬさ海よあ（ナビドコニモフトヲ孔ニ業ノ出モフ）
とのごりうりてみじ少ゆるりしるか
たうりうとしてうへそ寺よりし（業羽）
源氏の君ふそおうしうれおどみれくぬ（原ニ云シ）

とのの御とへぶいとうしうとそひて
あるうましきこうあいさ（業羽）ニ云シ心ちのの
さうぐさうきとの松（山ニテ）ひしうばぐうとう
こうさときうしうわとあばしてのれいとか（源ハ）
しときうの人どくうのうとそひうれで
さうあやうしうあやうるれたるひを
きうとを松ひて入へ（アヒ）れひぬ（源心）ばいふひな（イトナナセドツレヘニト忌モフ）
れけをひやうわしもいとをうしうへうと覚
ど人日しいとまうあやうよとうひ少れ
例れちいきうて（はミキナサク結ブカ文ヘンシ）（是モ有リゴトノモハカニリトシ）
源いとけあきこうげのひとを忘少しうあ

古今
人江ヨリ多チシ小舟コギクヽリ
タヾシ人ミヤ恋ワタリナン

行ヤラヌし
しまになづむ舟のえなれぬあなたづたの
とゝとさうおさなくきこなしのつるしみ
ぢうおうしげなれハ心やそれもなよしと人ゝ
きこゆるかの名ぞ(花ヒサ)かしこ(文約)ハ(危君ニ考エテ)ゆつるハ
ふとしそぐうこげなうさ後ゝて山寺
(花上ハ小山ニヤカレトハ今ハヨリ花ニテトリ礼シ花トシ)
よまのうわつ波ゆ(ニテトリ礼シ花トシ)れて(ウ)うとゝとせゆ(ウ)
うこまのハこれせなしでしきてうん
と(原心)ゆわつ(原心)しと(地)袁と(地)受は秋の夕くまてて心の
(友善)
ことまなくのし受みぢうえ人のれあうう
(友善)(紫上ノラズし)
よ心をけてあれ(ハ)ちなうハいうわしうゆ
まのりきこ心もまうう(ハ)ゆなうべ(わこそ花ノ寄シ)きうえん花

イツトテモ恋しうスハ(ハ)ア(ア)テ(テ)ハ(ハ)ヒ(ヒ)ト(ト)ヒ(ヒ)
秋ノ夕ベハヤシヤリケリ

(古今)
紫ノ一モト故ニ武蔵野ノ
草ハミナガラ哀トゾミル

(朱雀院トハヨリサノ御門ノ
スエニ又所ヲ云シ三条朱雀
四町ニツクテタリ進善ノ
所宇ニハ宇多ノ門ノ東
雀院ト申又寛平法皇ノ
御コトし

なきとあわしゆめべあぶ(ハ)ゆ(ハ)ぞられてこひ
しくもまうこ(エヒリ深ク)ん(イヒナン)ぞとゝわやせんとさすゝよ
あやうし
(原)でよ(ハ)らて(ハ)いたし(是ヨリ紫上ト名ニ云シ)
(六条院ハ大臣有者ニ紫色ハ最頂シサハ中一義人ナレバ名トストし)
孫ようしうう野ゝ(ハ)ん(ハ)ひ(ハ)さ(ハ)の
朱雀(代ヘノ仙洞ノ申し)院の行幸あうべ(コヽニテ行紅葉賀ノ巻ニミタリ)
しなれ家のこゝし上達部殿上人ゝも
(楽器墨ヲ)ゝ(ハ)の(ハ)ゝ(ハ)ハ(ハ)ほ(ハ)ゝ(ハ)ゝ(ハ)ハ(ハ)ハ(ハ)ハ

が出てありくに（ワケト使フ）けうとくうらみれば（侍）故の
ものとのこのあるに（文ノ内）うらめる（腑）せ（中間ニテハ京ニアリシ）の花日の狩は
なんたのもしかるべくみ侍へなりてせん
の（会者定離ノ）定理なれどうなりいとなかるかなどあり
とみるふよ世中（原ハ）のえうかさも長よ（屋ノ）うろ
てげよ（紫）へしいるるんおされさか
どよこひやそ〳〵んこ（原ノ海）やそ所よとられ有
しみどえうぐ〳〵〳〵〳〵ひど思ひいで
あさ〳〵ぞこふてひの人のお物をゆへ（ユヘ）こと
らげれ人うるどきてしういとなどすぎ
て京のようのようなんとさうめへば（紫上京ニ出モフ）（原）侍へてみづ

のどうなり来おうらいとすごげよあれと
か所の人ぞくなうるよいうおさなれ人おそ
うしんとミ拙例の所よいれそまつて
お物をれ（左ノ）ありきを（オ物ヲ）（オ）（ヒ）（ヒ）（ヒ）（ヒ）（ヒ）
けぞうよあいなれ神もしでなるぞ（原）ふよ
わづ（年ノ宮ニ）きんとは侍るとこひめ（紫海ノ）（結母ニハイヤバトラホズシ）ものいとなさ
けるうきこりのようひきこてのうしよ
とひげよらごなるぬよとひのまぐこも
ぐ三人のおしひけをしみこりれぞな
うぞうれ程うそあまこ（兵ヲヤノ子達）（紫ノ乳母ニ三人アリ中デアナヅ）めしれなるな（ラスレキ人ナビン）
うのあかづうしきくそやまぐをれん

なほ（屋）すぎ流れわるしもとうもよ笑てなげ
きつるしもうきことあるく行よ（所）かてで
けなりなばのれこの葦いのりれ思した（カハラトハ）
どわ常さんせぞいとうれうゐひ流へらし
めべきれわよ行りなどすうしなずひ（元弁ヨリヲナキトシ）
なうら波よわし流ぐれたうらわしわび
てなうしいまんまばとうづをうして行と
文ゆ（源氏）なのようかうへ（ムケキキコソヨセトシ）うへ常さてゆる心乃
征とゆをを流ん（ムケキ）その子ひるきこれりさ
波のわれよゆうしう笑て流も恋りとに
ゆん心るゐうこうしたて流れ人ばてるで

アシカカノ浦ニキヨスル白波ノコハシナ君ハカレヨモウトモ

紫ノ上ニ

常しきうせじや

源 チノワキニ若キ浦ノヨセクリ（チヤラ吸フヲハメザニトト）

わうの浦よりうめいうくくもこえうち

（封面イシ）

ゆうくくう波うハめざしまの（面モアルニジト云心）（スサマシ）

げよいそいとうこけれしうて

（第三）

（源）波の心しうてでわうれ浦よたまのしる（ムケ）（藻ノ如クシナヒキメブバウ）（キ人心トシ）

じん征ぞうきうこわりなの征とゆ変ゆ

（イトケナキトシ）

さ波のなれうよすうけこゆうさしのふ

源 （イトケナニ度ハアハントヲボスシ）

なぞてざうんとうちうこうと方に

（第十一）

ううてわうきこ人どあるうあ。

（第十二）

常しれてなきこゆ

源 （ミラ）

うよれあそびぶ（ヒテ）

きどしのなうきうこ人のおしすう変の

（共ニ）

おんてまなうりとゆれで（紫）ちき出れて
（源）お納言よなをきうわつてんぶづ文の
おとゝかうさとてしわかるれ忘れと
ゝたし（源）文よハあるどゝ（イミン）あるかもの
ぞしもあしぞこゝろ（源コヽロヤスク）とのれをとゝ（紫）づしかう
し人とさすごきくなてけうそして
ゝりとおぼてめれとよさうしわてざ
し祈ふてきよとの（源）人でへ（源）さうなど
（地恵）みびのふんこのひざの上ふれとのごれな
（源）いまそうしわ（源）人とのの人でめのとのれ
ばそうゝづねれ（如況イフヒヤキキイイ云）ねそなんとそを

をありふれぞなに（紫）心もうく（源）ゝ（源）
（源）よとうしれてさ（心悪ゴシたゞし）ゝのへれでなよゝの
れでようしいけやくとうとをのさ
やうさゝけられ（紫）ゝとうて
うんひやゝ（源）ふよとゝ（紫）人（紫）ばうそれ
いゝぬ人のゝくちゝづき（紫）ゝ（源）ふかそうう
て（源）孫うんとゝのとゝそ（ミサテイ）ゝびていきゝりふ
よ（源）ばきそ（源）きべゝりて（源）まいまゝうぞありのべ
き人ばゝうとゝのひそとの（源）ふめのとそのは
ふゝそやゆゝうも（紫）ゝ（紫）ゝ（紫）ふ
ゝもれゝもさゝよなのにゝすも（紫）ゝ（紫）ゝ

ゆとそてゐるべけよおりひくれば（原羽）さわた
くられかどといとイトイナケレバ何度ノアラントトシ
ぬ思ふしかなどとみそその人との絶あれ
わわれてすごし東のさ夜なわ（原心）ぞくう
人ぞくなる思ひそくてぞ流んとう
らないあていとみそてぐ花なれば（羽）を
くしまいりの四あそろきし東のさ夜なろ
とこのみぐしそ侍ほんんぐらくさてと
れよしとそいとなられぐかよみ帳のうちに
くさいぐきそいわの人ばあ（内女）やしうおりひの
かるもとあきれてくれもしくゆくろ

めのというろゆくうわりなしとおり人どあ
らまうきこてさくべさるひぐうら
なげきつゆうわ（第十一十貳）ぐいいとあそろう
いくそんとわくそれていとうけてきれぐこ
つきもそぐろさしげよおぐしらを（原）くく
おぐそひとぐろわをなてこそわぐ（原心）
もうけいうそおぼしり人ど義ようらて
ひるていざの人よおしきゆ忘みどあるく元
ろかのそびみどすう一所よと心よけくづさこ
ととのれけそひのいとなろしきとあさる（業）
きゆちみしいとそらしとぐすさすぐよじ

（キツガハシ）たづうゐしてぞおぐてうろきて
のゝ人（やゝ）秋ひとよ風のさあてよばけようう
おとをざ〜まうぶる心がそうまし　お
ものくいとりしまき（九年ノ程モ可然ナレド）程よおとうまさ風し
うばとまきめきあ人（うめ）れというろやうさに
いとらうまうぬ風をう吹やとうよ秋
ちういでのもことありがなりやいと（源氏ノ御書ニ毛つ）義よ
みそまつれあうさ風といまいまし〜てうう時
のましおがつうなうべし（あ）れなが先
こべう有よわう（二条院）をまんうてれこいうぐ（白石キドクノ）
ぬをどうまうまいさわうとの後へば（源氏御書ニ兵部ヨリシ）文しれいし

（巻三冊毛ノ中ナニ依テ　ココ誰トナリ書出セリ　作ノ人トリ）

人などかしのみれどけれ風すぐ（ナヌノ）
してやるどそひあうと実ゆればあり（原氏　兵部ハウトクノ人ヘ（ニ）ハ　シタ人ヒたベシ）
きをどりるぐ〜しうそくまそなひのうう
しおなどうそうとう（文）覚れをさまうわ
みそまつれどあさうぬ心ざいまうりぬ
べくるんとそういなぐそううアうミどうそそ
のもしぬいうどうきわうりうえもうでか
らぬよ前いとうろをきそまことのばさ（実ノキヌぐナアバト覚スレ　西白カラト）
うもおうわぬべきよさうぐ三う思
おうよふとみてうひ後（クレトモナレトシ　前ニモ志ゴ玉フ所トアリ）雨のうもりう
うをおがいでうどうらうをを後へど

きたらんひなくてはともよ
ある人のてうさこそ
あさがほ
はきわけのまもひまも
はそぎごろさこ
催馬楽
かどうかとやさて
うひらよりしばしひと
じて

後撰。せもとにありけんこ
ろけざりけれバ

あしくは
うちこまもわきまへ
心アラバトニリモヘ
ヤスリモこモハジトハ思ヘドモモトし

秋ノ夜ノ幸ノアケしノワビキ
アムドアケヌモノニリ有ケム

幸ノアデしたハヤケんこ又ヌアケテイリモヘトし

くさのこざつよさくわしもそでとひ
けていうぬまくこんもそこひうつもな
さけあけれどあけゆくそしもしさく
てとのへかくわ
涙
ぬおくうつくんのかごわ

イヒガカトイテスキカ子テ
草ムスフ風吹トリナア
八月二十二

夜モスカラタツサハリル妹ガ袖
名ゴリコしノウモホエルカナ

こひしくひとうたしきたしこしつつ
うあはとのごもりかきてふをやりれよく
べきことのくしも例ギラヘバ
けすさうひめ
愛敬
楽ニモ三ニ出サシ
こにいふふしもえわるはてうこびわ
しこよなうあれまさわひろうあのう
いとぐくぐくなよさびしれで見ましこと
まひてうあよハいそうそもおされき
人のそぐしれうんれてこよわうう
てんなよの有せきはみもあぞあのといさ
曽司教有ナトカ
うしみどしてひあん
ハわきくん
ヒヤヒヤヒヤヒヤし

みどわれがりわらもよあそびていとよもぬ
しられなんみどのの[illegible]
[illegible]ようれはうつり香のいうどうえん
よもうとうりのへれば[illegible]れにかひや
れぞいっとなべてしと心どるすげよおばいく
ようはしもあづまびとてきぐすぎこのへうへよ
そひ[illegible]すもあ[illegible]こよわりてみ
[illegible]ぬせしとあやこうとと
[illegible]てんも心をくちふあわしと
ぬしられんも心どる[illegible]うみとの[illegible]へばみに
くい心がそくくとこどいくております

なんすうぬの心おもかりこりがんよわて
せられんそうくいはうべれときこあよう
ひらこひきこてあへよもうかきぬしきう
めさびとそばよっとやっあもやせあれど
いとあてようけうくくなくくみてあ
なにうきうしもおばそまいせふなきくの
れとはうひなっそのれあきいみどうて
ひ字れひてうれどてきあへをいと
心がそくとおりひてないのへで文もうら
なきこあていとうこひなりあひそけ
ぬあそこうまんみどもてうへ

ときて出れぬなごりもつぐさあるような
きこゆるゆくさきの方のあんとなど
まぞもおぼしてぞうでばうらて
ゐるありなうまいてあひて今ハ
なれ人となわれひよりと見せがうで
きふおさるれきこれ心ちるれどひとはと
やこゐわてれいのやうかもあそびれそぶひ
ほいさえしまぎてうれよと多れとな
ればうとうくいしく久ぐていぞそ
ぐれ人となくさあらびてめのとなりさ
あり玄のれもとうわい雅光とれれ

ゐり翔いりうべきを内ちうれば
心ぐうえうえりしこげ心ゐくとそ
ものべをれれてあらきなくしあうか
さえれそもものらぐめよひれとよ文
きこうつけばさうよくのとわうなに
ぐさいなまれんわかこのめそよいて
けりくうりぐきこうてえれかなどふし
れとばなにしう見ぬぐにさまきあ
おれれハ雅光よ長ひうれ濃どもして行きとし
てのちやうべきこれそのぐれきてれいぬ
やうもあんぐでいまいけてしいとにげあき

はしたくみをりをあやまつおぼつかなくもあるかな
いろのいと心よう（原本心）ありけるひとのなくみだれ侍
りしかとも変わらせ給てうしろやすくてけふ
まつまと心かさるくるしくなん中ゆかなどの
ふれをつかしもとるべくもこそなりぬるも
くうるはしすきごとともこひ出しかたりけ
などいひてせんもとありがたくやられん
みどあいなけれいふかなげしげよもひ
なさげこひ（惟光）ものいふことにあらんと思し
ぐるるまひ（惟光原本ナシ）てありさはるなどあれ
ば食（原本）よおぼしつるほれどさそうひれん

もさすがよすがらなる心ちしてうちぐ
そひぐるることくもやもうきえんなどつ
まれればぐしぐしくてもはそ（惟光）文ハ
うびくしそまつもあれバ例のさい
ぬをそ（原本ナシ）れ（惟光）さ（原本ナシ）ることもものありてえ
まりこぬハをろうやなどけわ文（かわいそう）わけそ
例よれ心人よとのれをそうわつれで心ひとき
うくてなんうでばのよもぎふとそれな
ひもさすがよ心がそうきふ人ともこひ
うぶしてことぞくなるよひてあさ（朝）
あひらぐぬぬひとなひけとひなど

△スガキノ足樂人モ多カニネ知ト云リ或説ニ樂ハ琴ノスガキトヨトシ和琴ニ菅櫛所櫛トテ神楽催馬乗ニ用ルコトアリ五柏子ニハスガキニ柏子ニハカタガキト云リ又箏ノコトニモ曲ノシハリガタシ茂櫛トヨトヽ

△風俗常陸哥ニ
ヒタチニハ田ヲコソツクレタレシラナミ山ヲコヘ野ヲコヘ君ガアヽタキニセル

ちぎりてしかりつるぬ。恋いかばかりのよおくるけ
ふよ。何のめ恋ことにもこいそんしれとだに
ちらしく見てあづまとすがきそひて。此所古来不審
ちらしハ田をそたれとふうとを忘は
いとなまれてすきひめ恋ろまいろれど
めしらせて。けわさ海こひ恋ニちくうんて
きこゆれどちらあ。うかばてうれ変よ
わわなばわざとひろいでんもすきぐ
ろべしおきれきくんとぬをしいでらと
もどきこひなんそのさきよ三でくんよも
ちらぐさそわしてんとおぼして。曉て

こよ和せん車のさうぐくさうがくをいぐひ
ちうちうおぼせとをさこれとの恋うげれ
ちてこちぬ恋いいるせまし学ありて
すきぐまこやうがうべきことくんのかど
ぐよ和とをひこてけ女の心をけることと
をそちられぬべくいまのひなる文変
の為ぞ恋くんもそをうすぐろう
べきとと学みぐろれどさそをぐてんハ
いとちりしろべりいまぐ乗やう出れ
め恋何のこぐくよ心しうけぞめし恋
こよっとせちようべきことのをぐと

思ひのほかなんとうまつりきりんとて
出給へどさすがにしたてまつらわびぬ（業上ニテモ別ニ源氏ノ方アリ）
るとてれなりをてるどいそぎ惟光ばら
を馬よのせておくるぬ門うちたれ
へば心もとなくぬりのあけきこえ（イヒキナシ）車をや
とりいきいれなせてうちのたまえをとろし
てたてまつるみげいかが物きこえていきこえわ
（惟光）
こよおそるまきすとしじ（源ノ仏カノヨレヲ手ヒシ）おさなく（仏言）さくはれ（業）
とのごもりてうんなどうとと乗かうちち
そなりへうとめのたわとおりひてて
（源）
家へわてもいかべうかうとれのききよりの

一ときこえさせをうんとそおんとの給へば（仏言）
どよういまべらんいうまるくこれいてへき
てしさせれうんとそうしわうひてわうれ（源）
（仏言）
なれへべいとうとこ（仏言ノ見者ニキラ信タル）いてくうちとけてなや
きれやうべたの給うかとおしさまぐ（源）おど（ウコシハセイナ）
ろいれうでおいでれやさまきこえんく
ほあすぎうをいまでいめうりのうとそいう
給へばやと（仏言）えきこえしず（業）ハ何心もなく給
れうとぶきおどろしれよおどろきて
（業心）
家のれいしへよおそうとと給をびれてお
ぼうられ（源）ぐうきけくうひなどぬて

ヤトハ万ベビノ是ハトモイフ文トシ

羽
いざりくゑのれにたひてまいりきつゝそ
の流よこの業ぎわりとあまれておそろと
えひらうれ業羽ぐあれ心うまろもおるべくそと
てうきこゝろそ出給へ大伴の家持の紙をみど
こいうまと変ゆ。原羽てよいたひろもえまして
ぬがおほけうなければ心やそこあまと実
しを心のくわ父倉へうれべうればまして変
えぐうべられぐくひろまつ二条院へ好ようとの
給へで心あ大伴家持しくしくて給へいとびくなく
なん行べうこゑのうちせ流をんよいうう波
ようきこやんをめだう行へてさうべうこ

よおそまさばこもかうも行うなんをいと
おしひやりなれ行のとにはればさふふく
ぐうすうう行べとやゆれば原羽よりの
ちゆ跡ヤチリトモ人いまうなんうとそれ車もさも
給へで大伴家持あさまういう波ようとひわへ
業ゑもあやしくおぼてるいのふが紙をむでゆ実
れでもじこそげてみづうもうろこれきぬひし
ぬさうくてのうぬ二条院し近ればまぐ
あううのぬ行よおうして西の家より車
しもてありれわう業をいとうう
原りさづきておうのふが紙を行へと

爰れ思ひ侍りしを、ものいひ侍りしに、
よりとて、やがて、そこへ、
それ、まうでまうでしに、心ありて、
えんとのれる、
まうしもしたげうるに、文のおぼ
のれんことを、いとあはれ、べきさまあり
海よりそもかくてたのもきこえ
をれば、うがいうじきとそよ後のそま
らぬとさすがよゆしれば、神へ、ぬる
こゝろいとしきに、流るめ、帳など
もなりわりわ、恨れ、原
ぬ、ぬ、ぬ、

まこせいかなぐのたけうりさばきうひさばきよし
いとけ庭のそかごしも玉とうきのうんやう
よゝえてゝやく四ちりそうにたゝとなくゝ
あるれどこなしよハ女みどしきてもきの
ちわうとれまらしたどみどのもいつりあり
のゝこなわれれバかとこごもでみそのこに
ありうろくくじゝ人ゝ流ゝうときゝ人ゝうれ
あんおぼわけよハあゝとさゝくれてう
げれいうゆるどこあゝよまいゝ日なう孤れ
きのゝして人なくてあゝうゝとさゝ人きゝ人
くゆつけてそいじゝ也流てあとの孤

てゝあいよゝてわゝめゝよはゝそはちいきき
うぎわことさうにまのれとあわれバとれ
しげゝそにゝくまゝうゝあハれそに
まとゝれてゝ流ゝうとせめそれうて
ゝ心うくなおそせすゝろなう人かり
ハゝりなんやせい心やゝうゝあなんよき
などいまゝわゝそゝ流れうちきき
ゝれてゝゝわゝいゝうゝうきよまて
なわゝゝうちかゝてひつおうきき絵
あそびめどゝうわゝよれゝうゝてゝみせゝり
れ心ゝよれくゝゝことゝもれゝれやうく

おきあてみれよ（思）にびいろ（褐色ハ三月七ハ今月三デノ服衣ト）のこまやかなるがう
らなへるうどもどきたまひてさそなほ心ゆくうち忘れ
などしてわすれつるいとうけてきこゆわれ（原）（ワガ氏ガモトヘモ西ノ方ヘ用ユ）
しうらぬまれてミねる（紫）ひんぐのたいよ
わるわすれつるよ（紫）立出て座のこぐらゝ地乃
うちなどのぞきしわすれで（紫）もゝれの家武忘
よりけうやうよおもてうくてみしてぬて（黒）
位（ホ）位こきまぐよひまなうぞりて
げよおしきかうかと受をれ屏風ど
みどとおしきろとてなくきあてお
ろもれうなりや（原）えい二三日四（もまい

（ヒラ子ども武蔵野ノ人ハ古タレヨシヤサヨハ紫ノユヘ）
見渡セハ柳サクラオユキ
ニセテ都ノ春ノニシキ成
ケル

シラ子ども武蔵野トイヘハ
カツヘレヌヨシヤサヨワハラ
サキノユヘ

あとはてぞけんとなるひけうひきて
やどそなよ（手本）おとおばもそやよなひ忘
などさ海ぐようきてうをもう沼いうど
うおしげようきこのつあ沼てひさしのを
ゝぐうこうれぬとはひさ紙の紙よういた
つるそしつきのいとことなりとうてえ
カ沼てそうらいさてて
（原）（ヨテハ）ゆいこうどあれとそふひさしの家
まけわする草（紫）（草重思出シテノ歌）のわをとありいで（原）（羽）（紫）えし
ふゆ人とけれバ（紫）（羽）まぐこようふそとそこミな
げ沼てうぐなに心ゆくうけてげれば（原）

ちゆしろそよ（原）ゝ　ねどしげよゝぬそ
わゝふをへきこゝ　ゝえんゝとの浜ぶう（業）
ちそぐこそてい　ふをつさふぞこゝわゝ
さゆのおされげゝ　ゝるしらゝこゝのゝおばゆ（原心）
れば心あゞしあやし（何ゴトモナキリニヨノミニ元シ）とおもはそ（業羽）さそこ
なひけとそゞりてゝ　ふをゝをゝわてみ（原）
ふへで
（業）ゝこれへさゆへをゝてゝ　ゝいおばつゝかいゝ（カコツケテ）
なゝ　ゝのゆゝなゝゝんとゝとわゝけれど
おいゝれゝこゝてゝくよゝよゝい　ふてゝこあ（原心）（ヤモヒウル）
ま　ゝそゞゝゝわゝゝ　ゝいまめゝきゝゝなゝ

ムラサキノ一本ユヘニムサシノ野ノ草ハミナカラアハレトフベシル

そゞとよゝゝい　ふひてんとみれひゐなど
わざとやゞしたゝゆゞけてゝゝとふふの
そびつゝこよなれゐ（業重）おりひのまゞゝゝ也。
（業）ゝ重ノ人ニ右ヒラ云ハ故帰シ）のゝこまわゝ人ゞゝ　ゝゝゝわふふてゝゝれ
ゝてふふゝゝきゝて　ゝゝんゝゝなゝてゞわ
びあゝゝゝゝゝゝゝ　ゝゝゝとゝ（原）ゝものゝ
まひゐゐゝゝゝ　ゝふゝとなればせちよゝちち
ゝゝやりつゝゝゆゝ　ゝゝとゝゝゞゐゐが
ゝてゝゝきゝてゝゝ　ゝゝとゝゝ（ヒヒハスルベキ）ふふゝよ
文（業）ゝひなゝゝ　ゝてゝこあまゝゝゝゝゝ（元文）
こよゝゝわふふゝん　ゝとゝゝゝとゝゝ

わしことなれどめのとさうそぐ
うら心どものあまわかいとうよわとさんとびん
なりみどいいそで心よまをてみてうち
しつうなうりとなりくくくうれぬり
きくぞまうでけばけとの所しわづてと
こうく侍所のれもとうもうづ学所へ
どあとてうなくてあてしかうしれうこ
らなどこひしくうれしと見を心のうる
しうく業をにうとひ学しれうう心しう
せてわが心よまうをけりべうおしほうけうよ
たびめうしくうりかう見てりうおうく

人まいわあうまわぬだあそびごくきのわう
うくらごうしとうづてうよいまのやうきだなの
ほうこ所どうなれば心ふとうとなくてあそびあ
所わ業えいかと原こうえのかたをぞなどうてさう
くこうさ夕雲みどうどうわぞあまえとこひ
学しのひてうちなれなどし所へど変を
ばとにこひぞ学て所うぞもとうわみな
らひ学しれうぞあうひ所へをばまいで
はのうれおや原とうこうびうひまううき
うし所ゆ原ゆうしうわかしてすれどまけぞひうひ
て長ようりうこうひれみとうろよりぬ

てゝいまてうとくてゝとゝひてゝぞさ

ほゝとしよいゝうゝぐうゝらゝゝさゝわゝざゝなゝわゝゝ

（恋紫ノアリヒガタキミシエラフ云ハ　何心ナキミノアラバ思ハヌノコト出ンヤ）

さゝうゝゝらゝゝゝ

源氏物語
夕顔
若紫
末摘花
紅葉賀
花宴
葵
賢木
花散里
須磨
明石
澪標
蓬生
関屋
絵合
玉鬘
初音
胡蝶
行幸
藤袴
真木柱
梅枝
藤裏葉
若菜上
若菜下
柏木
横笛
鈴虫
夕霧
御法
幻
雲隠
匂宮
紅梅
竹河
橋姫
椎本
総角
早蕨
宿木
東屋
浮舟
蜻蛉
手習
夢浮橋

山路露
系図
云九冊

少
赤
紅
花
柳
櫻
楓
蓮
菊
玉
胡蝶
梅
菜
菜
穂
鄙
白
雅
早
花
漢
松
し
初
舞
袴
若
若
柏
夕
幻
猶
總
齋
東
蟬
山
絵
常
友
明
陶
朝
堂
行
友
上
下
鈴
紅
竹

源氏物語
桐壺
帚木
空蟬
夕顔
若紫
末摘花
紅葉賀
花宴
葵
賢木
花散里
須磨
明石
澪標
蓬生
関屋
絵合
松風
薄雲
朝顔
少女
玉鬘
初音
胡蝶
蛍
常夏
篝火
野分
行幸
藤袴
真木柱
梅枝
藤裏葉
若菜上
若菜下
柏木
横笛
鈴虫
夕霧
御法
幻
雲隠
匂宮
紅梅
竹河
橋姫
椎本
総角
早蕨
宿木
東屋
浮舟
蜻蛉
手習
夢浮橋